

昭和三十三年三月十日（才一日）  
第一回市議会议定例会之議錄



昭和三十三年館山市議会才一回定例会会議録(才一日)

一、昭和三十三年三月十日午前十時館山市議会才一回定例会才一日  
を館山市役所分館会議室に招集、

一出席議員(三十三名)

一番	石井 潔	二番	高橋 文治
三番	伊勢 仙之助	四番	小 浜 光義
五番	後藤 ゆき	六番	秋山 万次
八番	金木 久一	九番	安西 政治
一〇番	田中 禄郎	一一番	脇田 順一
一二番	吉田 勇治郎	一三番	小 沢 太助
一四番	中村 良五	一五番	小 谷 豊達
一六番	田村 喜安衛	一七番	嶋 貫 壮作
一八番	佐久間 為次郎	一九番	黒川 佐太郎
二〇番	山口 房治	二一番	萩生田 七郎

二番 小 沢 恵太郎 二三番 福岡保徳

二四番 山 本 昇 二五番 松 本 藤太郎

二六番 可 世 木 牙 蔵 二七番 鈴 木 孝

二九番 遠 山 ヨネ子 三〇番 磯 辺 周 雄

三一番 大 野 清 五 郎 三二番 望 月 暉 作

三三番 田 中 忠 蔵 三四番 飯 田 義 男

三五番 嶋 田 繁

一 欠 席 議 員 (二 名)

七 番 鈴 本 市 蔵 二八番 山 口 康

一 法 方 二 百 二 十 一 条 に よ る 出 席 説 明 員

市 長 田 村 利 男

助 役 小 出 武 男

收 入 役 代 理 眞 田 森 吉

総 務 課 長 兒 戸 貴

保険課長

唐沢貞太郎

商工水産課長

羽山房雄

送管書記長

渡辺 茂

建設課長

新井重助

農産統計課長

吉田耕一

秋書課長

山谷潤昶

福祉事務所長

長谷川玄治

厚生課長

神作啓次郎

戸籍課長

高木哲三

税務第一課長

山口 実

税務第二課長

伊藤幸太郎

診療所事務長

池田亮山

消防署長

安藤亀吉

教育委員会教育長

工藤和平

二 館山市議会

教育委員兼庶務課長

鵜沢 貫覚

監査委員

関 武天

一本議会の事務局長書記および職員

事務局長

高梨 清一

書

記

太田 博雄

職

員

畑 中 弘 敬

同

山口 晴之

一 昭和三十三年館山市議会第一回定例会議事日程(第一号)

昭和三十三年三月十日午前十時開議

日程第一 会議録署名人送任

日程第二 会期の決定

日程第三 議案上程

日程第四 市長施政方針並びに議案提案説明

日程第五 報告第一号 昭和三十三年度二月臨時支出納税査報告

日程才六 議案才三号

觀光宣傳パンフレット購入について

日程才七 議案才四号

館山市立船形小学校附属幼稚園設置について

日程才八 議案才五号

昭和三十三年度事業分担金の賦課総額について

日程才九 議案才六号

一時借入金について(一般会計)

議案才七号

一時借入金について(公益質屋)

議案才八号

一時借入金について(国保会計)

日程才一〇 議案才九号

起債について

日程才一一 議案才一〇号

館山市職員定数条例の一部を改正するについて

議案才二号

非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に

~~議案才二号~~

関する条例の一部を改正するについて

日程才一二

議案才二二号

館山市公民館条例の一部を改正するについて

議案才二三号

館山市消防団条例の一部を改正するについて

日程才一三 議案才二四号

手数料条例の一部を改正するについて

日程才一四 議案才二五号

幼稚園保育料徴収条例の一部を改正するについて

日程才一五

議案才二六号

館山市税条例の一部を改正するについて

日程才一六

議案才二七号

館山市国民健康保険条例の一部を改正するについて

日程才一七

議案才二八号

昭和三十三年度国民健康保険支入支出追加予算

議案才二九号

昭和三十三年度館山市支入支出追加更正予算

一、今日の会議に付した事件

議事日程に同じ

○議長(石井 繁君)今日の出席議員数二十九名、これより昭和三十三年度

才一回市議会定例会を開会いたします。

○議長(石井 繁君)本定例会の議案説明のため田村市長、小出助役、完

戸総務課長、唐沢保険課長、羽山商工課長、眞田收入役代理、渡

辺送管書記長、新井建設課長、吉田農産統計課長、山谷秘書

課長、長谷川福祉事務所長、神作厚生課長、高木戸籍課長



山口税務才一課長、伊藤税務才二課長、池田診療所事務長、  
安藤消防署長、工藤教育長、鶴沢庶務課長、岡並査委員、以  
上の出席を求めましたので御報告いたします。

○議長(石井梨君)ただいまお手許に配布いたしました会議日程  
表は本定例会の大体の本会議の日取り予定につきまゝて議会  
運営協議会の意見を求めて作成したのでありますがおおむ  
ねこの会議日程により本定例会を運びますとともに、その間  
議案の追加または議事の都合等によりまゝてはそのつどこ  
れを改めることにいたし、大体このようにいたしますに御異議ご  
ざいせんか。

(「異議ない」と呼ぶ者あり)

○議長(石井梨君)御異議ないと認めます。よって決定いたしました。

○議長(石井梨君)日程才一会議録署名員の決定を行います。

お諮りいたします。本定例会の例にならひまして議長の名に  
よりますことに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よつて九番議員安西政治  
君、ニッセン議員鈴木孝君以上御兩名に決定いたしますに御異  
議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よつて決定されました。

○議長（石井潔君）日程オニ、会期の~~決定~~を行ひます。

本定例会の会期につきまゝては議会運営協議会の意見は二十日以内  
というものでありましてお諮りいたします。

会期を本月より三月二十九日までの二十日以内と定めますことに御  
異議ございませんか。

（「異議な—」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 梁君）御異議な—と認めます。よって会期は二十日以内と決定されました。

○議長（石井 梁君）日程カ三議案を上程いたします。

ただいままで議長の手計まで送付のありました議案カ三号ない  
—カニニ号および報告カニ号を一括議題とすることに御異議ござ  
いませんか。

（「異議な—」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 梁君）御異議な—と認めます。よってさよう決定いた  
しました。

○議長（石井 梁君）議案の配布もいはございせんか。

お諮りいたします。この際、議案の朗読は省略することに御異議

ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井潔君)日程第四、これより市長の昭和三十三年度における施政方針ならびに議案提出理由の説明を求めます。

(市長 田村利男君登壇)

○市長(田村利男君)昭和三十三年度の施政方針につきまして申し上げます。

ここに昭和三十三年オ一回定例市議会を開催するにあたり昭和三十三年度当初予算案を中心として各種議案を上程いたし、まゝたが所懐の一端を申述べ、議員各位の御協力をあやぐい申し上げたいと存じます。

わが金沢市は昭和二十九年年度以来全国的傾向にあった赤字団体として、その再建にあらゆる努力を傾けて参り、まゝたが

その結果早くも昭和三十一年度において完全に赤字団体から脱却し昭和三十三年度にいたって変則的起債と目されていた館山高等学校施設組合に対する元利金一千八十九万圓をも全額償還しここに初めて一時借入金百圓という健全な財政の基礎を確立したのであります。

顧りみまするにわが館山市は昭和十四年四月市政施行以来漁港の拡充 文教の刷新 産業の開発 土木の整備等限定された財政の範囲内においてでき得る限りの施策を實施し市民の福祉の増大に向つて苦闘し続けて参りまゝた。この間に於ける財政的窮乏の原因を考察いたしまするに他の富裕市に見られるような特別な大工場 特殊な大規模産業等がないために余裕的支入の増収は望むべくもなくその上支入の根幹をなす市税の徴収率が極めて不振であつたところへ町村合併 其他著しい行政的変革が

輻輳—財政の窮乏に一層の拍車をかける結果を来したことにあります。

かくて遂に昭和二十九年年度において実質赤字三千八百三十万円を生ずるに至りました。

—か—ながら昭和三十年度以来自主再建団体として決起—短年度内に当初の目的を達成するを得るにいたりました。—か—この状態は倒えて申しますならば急坂を押—とぐる車のようなもので—も一瞬間でも力の調和が破るれば再び転落する危険性を多分に包蔵しているのでありましてわれわれはさらに努力—協力—複雑困難な市政の重荷を積載—たこの車を—歩—歩高所へ引上げ頂上に安定させここに拓ける坦々たる自治の大道—を力強く—歩—いて市民に負託に答えないければならない責任を肩—てるのであります。

かかるが故に私どもといふ――まゝでは今後と未得る限り  
国、縣に對して地方自治体の機能を發揮するに足る十分  
な至費の支出についての財政的措置の是正を求めると  
ともに自主財源の確保に努め所謂政府の提唱する「昭和  
三十二年度予算に比し若干の伸びが見込まれる場合には  
支出の實質的増加を嚴に抑制する。」という趣旨を堅  
く守つてゆきたいと思ふ次第であります。

以上の見地に立脚して編成した昭和三十三年度の当初一般  
會計予算の総額は支入支出ともに二億五千九百三十一万九  
千円で前年度の当初予算二億四千七百三十七万八千円に對し  
二千百九十四万二千円の増加となります。

これは本市の財政の力を示すものでかくのごとく年々  
支入の増加することは明らかに市政発展の事実を数字的  
に語るものとして大いに慶祝に値するところであります。

以下順次入文との主なるもの、概要について御説明を申上げます。

先ず文入にあきまゝでは編成當時は未だ国の行財政制度の改正大綱すら確定してゐなかつたのでその計画については総て現行制度に基礎をおきあとう限り自主的財源の把握に留意いたしました。

市税の課税客体たる所得税 固定資産その他につひては或程度の変動は免れないところでありますが市税総額は一億三千百三十九万円として計上いたしました。オ入中の五、六八%に当ります。

市民税の課税対象たる所得税は国の一千億減税政策の余波をうけ大口所得者の少い小市町村のときは必然的に減少するものと思はれ個人所得税見込において約三五%を減りて現年度分として二千四百二十万円を計上いたし



まゐつた。固定資産中、土地の評価額については四%増  
家屋の評価額については四%減の指示を受けまゐつたが  
家屋の年間に於ける新增改築が多かつたために前  
年度よりも評価額に於て若干の増加をみまゐつた。  
現年度固定資産税として六千六百七十三万円を計上し  
た。まゐつた。

家屋増加の現象は各市民の生活内容の向上と商店街の  
著しき整備の改善と相まって都市的形態の充実に  
向つて変貌しようとする市勢の一端をあらわすものと  
して益々その伸張発達を希望するものであります。

市税の徴収率の伸びは市民各層の協力を得て年々順  
調の一途をたどつていますが明年度も更に意を用ひ全国的  
平均を上廻るように致したいと努力する方針であります。  
次に地方交付税については地方財政の健全合理的な一役と推

進する見地から国においては交付率を二五%引上げることとなりその増加が予想されますが所謂国税三税の収納との関連もあって今直ちに正確な算定は困難であります。よって現行の基準に従って算出せし四千八百四十万円を計上するにしました。

特別交付税は年度内におけるその市の特別の財政事情と勘案して交付されるものであつて年度当初においては全く予想がつかないので見込んでありません。

国庫支出金は三千三百八十二万円と一過大計上して支入に圧迫を来さないように努め確實に収入を見込み得る限度にとめました。繰越金として三百四十万円計上いたしました。

最近当市は市民各位の協力によりて単年度赤字発生の際乏財政から直り、ようやく平常市に復し若干完結を遂げる状況にいたりました。また本年度も最終決算

に於て出来る限りの黒字をとすべく努めておりますが、確定的数字の把握は困難のため、一定の額を計上するにとめまゐりました。

市債は四百万円であつたまま三十二年度と同額となりまゐりました。船形の学校の危険校舎改築事業債として二百万円、船形港修築事業負担金債として二百万円を見込んであります。支入の概要については以上をもつてとどめ次に支出について申し上げます。

市民の貴重な負担による税金その他の支入を支出予算化するには先ずいかにすれば市民の福祉に最も寄与することとなるかを考えねばなりません。

当市のごとく支入源の枯渇した自治団体においては到底そのなすべき事業のすべてを計上することは不可能であります。勢い支入規模に随つて支出規模を検討しなくてはなりません。

ので明年度予算においては土木、産業、教育等に重点を置いて編成することになった。

一かゝる重実的と申すまでも必ずしも予算額そのものの大小を意味するものではないことは勿論であります。市役所費は五千四百十九万円で額においては教育費に次ぎ、又と総額の二〇・九%と認め、三十三年度の二二・三%に比すると若干低下しております。市役所費内の人件費は四千六百三十一万円となります。人事の刷新を図るべく昭和三十三年度中には於て十名程度の吏員の整理を断行いたしました。今後も未得る限り人事行政の適正を得て一般行政の能率を増進するよう努力したいと考えております。

消防費は二千九百六万円を計上いたしました。昭和三十三年度においては機械の整備に重点を置いて努力いたしました。明年度は更に機械、貯水池の増強、消防署の人事機構充実に

一層の意を用い高度の消防技術と施設の拡充と相まって  
火災による市民の被害を最少限度に止むべく万全を期する考  
えであります。

消防団費において三十三年度よりも増高を見たのは公設消  
防としての本来の姿に返すべく施設費等地元から半額を寄  
付として受入れ全額を市費支弁にすべく改めたためであり  
ます。木関係費は土木費において千七百四十四万円都市計画費  
において八百十九万円失業対策費において三百九十五万円、合  
計二千九百五十八万円を計上いたしました。三十三年度の九%に対  
し一、四三%となり明年度の重点的施策のひとつであります。  
一國文化の計量量は土木・産業・教育にありと云われ何れの国  
いずれの市町村においても土木行政には意を用いてあります。  
当市においても甲天僻取を問わず、なお幾多道路の改修等  
を要する部分が残存しておりますので以上の額を投入して

の改善を圖りたいと考へます。土木費の主なるものとして、は道

路割溝及び橋梁護岸工事、館山船形港の改築工事、水

道工事等があります。都市計画事業としては、汐入川下流

の架橋工事が三十三年度中に完成する予定につき引続き海岸

道路の一連工事として、明年度は安房水産学校下海岸に長

さ四百六十米、中二米の新道路を開設し、産業の振興と市

街地交通の緩和ならんに、観光面の充實を圖りたいと考へます。

失業対策事業は九十五万円を増額し、市内における失業

者を救済し、かつ民生安定の實を挙げる方針であります。

教育費は五千七百五十一万で、総額の三三・一八%にあたり、中

最高額を占めてあります。

三十三年度に對し、百五十四万円減少してあります。その年

度内において、特殊の工事費を有する予算内容からすれば

かかる増減の生ずるのは当然の現象であります。

ーかーながら従来PTAに強く依存していた一般的需用費  
において平均50%以上増額して教育上の支障を除去す  
る措置を講じましたので内容的には充実したものと思考して  
あります。教育費中特殊な支出に属するものとして船形小  
学校の危険校舎二六八坪の改築費と一中校庭内の防火貯水池  
設置費及び婦人会館建築費等あります。

現在市内における小中学校校舎は逐年整備されて来ましたが  
なお完璧とはいえません。特に船形小学校は火災以来地元市民  
の献身的な協力によりその面目を一新いたしました。が西側教  
室は危険校舎として早くから改築が望まれてきたので明  
年度はこれを取り上げ地元民多量の要望に応える所存であ  
ります。オ一中学校は人家と隔絶し類焼の心配は比較的稀薄  
とはいえ一たび過って自家火災を起すことは湊川を前面に擁  
一ながら水利の便が悪くその損害は極めて大きくなる懸念が

ありますので初期防火に備える貯水池の設置を痛感し、明年度において是非共設置しようとするものであります。

婦人会館建設については過般の市議会において提せられた請願書について慎重に討議の上採択送付せられましたので現実の収入と相まうて実施したいと考えます。現在市内には色々の目的を有する各種の団体が存在活動しておりますが婦人会は生活改善運動等に対して最積極的に活動している一つであります。会館も建設しその十分なる活用に委ねる時は一層婦人の位置向上教養の涵養に資するものがあると考えるところであります。

社会及び労働施設費は三千七百六十七万四千圓となり市役所費に次ぐ高位のものであります。生活扶助費において三百万圓増加いたりましたのは三十三年度中途の法律改正による支給率引上げの結果であります。



保健衛生費七百十三万円の中へ塵芥運搬用トラックの購入費を新に計上いたしました。従来塵芥処理については市内各地に運搬用荷車を配して集めておりました。夏季避暑等も多数收容する当市の環境衛生浄化を考え塵芥の集収及び処理を迅速適切にするため機動力を用いて能率的効果を期しようとするものであります。なお近き将来においては理想的焼却炉と近代的隔離病舎の建設をも実現させたいと考へ目下研究中であります。これが実現の暁には当市の衛生施設は乱目に値するものがあると思います。産業経済費は二千五百三十八万円で五・九四%に当ります。三十二年度よりも百十一万円の増加となっております。予算算頭上からみればマアて多額とはいへませんが内容においては十分な検討を加え農、漁、商、工業全般に亘りその興対策を講じた積りであります。なおこの爲に今後の課題として

ますが、いずれ中天の決定と相まって措置いたりたいと存じます。

財産費は千百九十五万円を計上いたりました。その内二十万円が市庁舎建設準備積立金であります。市庁舎建設については議員各位の御協力を得て昭和三十三年度において已に二十万円の積立を完了し、明年度において一部着工の運びといたりたいと考えました。が、戦政の都合その他の事情により直ちの着工の見込を樹て難いのでとりあえず年度中に二十万円を積立て、財源の培養に努めたいと考えます。一か一年度中途において敷地の買収が決定し、これに充当すべき余裕財源がない場合には条例による積立て分を除き残余を更正してその支出に充てたいと考えています。

選挙費として百五十万円を計上いたりましたのは来るべき南部、海、已、農業調整委員会選挙、千葉県知事選挙及び

鎌山市長選挙に備えて予想される諸経費であります。

以上の一般会計予算の外に併えて特別会計の八幡宮質屋賃  
予算九百八万円と国民健康保険費予算四千二百三十一万円を  
上程いたしました。

なおこの外の議案といたしましては予算案に伴う起債  
及び償還方法の件一時借入金限度額を定める件各種条例  
改正の件昭和三十一年度追加更正予算の件その他の案件が  
ございます。

以上種々申し上げましたが市政は個の精密な機械のごときもの  
でいたずらに一個所だけの装備を充実して足れりとするもの  
でなく一個の微細な点一滴の潤滑にいたるまで留意して  
全般にわたって平衡を保たせるようにしなければこれを円  
滑に運転し得ないものと確信いたします。また運動五類  
が壓縮するのは次に前進しようとする意欲に伴つて一連の行

動であつて決して圧縮したまふではありません。当市の財政も目下のところかかる状態でありまして伸びんがために縮み将来の大を期して内に力を充たせ市民の福祉の増進に寄与したい存念であります。各位におかれましてもよろしく御協力を御ねがいいたします。

各案件の詳細につきましては逐次御説明を申し上げます。御質問にたいしまして私初め各担当参与の者から御答えをすることになります。

なにとぞ慎重に御審議の上よろしく御議決を賜うんことを切望いたしまして御挨拶いたします。

議長(石井潔君) しばらく休憩いたします。

午前十時五十分休憩

午前十時五十分開議

○議長(石井潔君)休憩前に引続いて会議を開きます。

○議長(石井潔君)日程才五報告才二号を上程いたします。

(書記朗読)

報告才二号 昭和三十一年度二月臨時出納検査報告

(監査委員 岡武夫君登壇)

○監査委員(岡武夫君)二月十三日に本年度才二回目の臨時出納検査を実施いたしました。議員の才四名の立合をえたわけでございます。

この報告につきまして若干御説明申し上げたいと思います。

帳簿や計数等すべて異常がございませんでした。

まず一般会計におきまして市税において六百三十五万九千八百二十五円の収入がございましてこの内訳は市民税が約七千万円固定資産税が約二百九十万四千四百九十円でございます。その他電気ガス税が約九千万円これらが市税の内訳でございます。

税外支入といふことは五百二十万余入っておりますが公営  
 企業及び財産収入として三十五万円入っております。これは  
 鏑野の遊樂舎を売却したものの土地家屋等が主なるもので  
 ございます。産業経済費の分担金として七十三万九千円余入  
 っておりますがこれは豊田地区の公園地開発整備事業の  
 地元負担金でございます。その他国庫支出金が二百七十七  
 万円、使用料手数料等で約八十万円等が主なる税外支入で  
 ございます。市税の収入がこの一月末で約一億円でございま  
 す。徴収割合は七四、六％に当ります。昨年度は一月末におき  
 まして収入額が約九千五百万円でございましてその徴収割  
 合は六六、八％でございました。

市税の収入未済額において五千四百九十一万円余数字が主  
 となっておりますが主な納期のこないものが約二千百万円で  
 ございますので着引の正味滞納額は約三千三百九十万

円となります。

つぎに支出でございますが二千六百六十八万円余出ております。  
この内訳はつぎのページにございます。各款別の数字がとて  
おりますがその中で大きな額としては教育費におきまして西岬  
小学校の校舎増築費として二百丁二万円、都市計画費にお  
きまして汐入川の橋梁施設費として百五丁万円、消防費  
におきまして消防車のシャシー代の残額五十五万円、消防車  
の機装費としてのオニ回分四十万円等が主なるものでございま  
す。収入・支出差引をしまして二十四百二十三万九千円余の残  
額でございますがこの内国保会計へ百二十万円流用して  
ございますので市金庫の現在高は一千三百三十万九千余  
円となっております。

つぎに特別会計に移ります。公益質屋でございますが  
貸付現在高の百九十六万七千九百七十五円、この内訳は船形

質屋が百三十三万五千二百七十円、高崎質屋が六十四万二千七百五円でございます。

つぎに国民健康保険でございますが、保険料の収入未済額は二千五百三十七万六千円余となっております。一月末に五期の納期が到来いたしました。あと六期のみが納期が未到来となっております。約三百八十八万円でございすので、その差引ますと、正味の保険料滞納が約二千四百四十万円となります。一か月前のあらわなお仔細に検討いたしました。一月末に納期のまゝした保険料が翌月にいたって月中ばまでに約二百五十万円位入っております。従いまして純滞約額というのは八百六十七万ではないかと思われす。保険会計におきましては収入支出差引ます。六十六万円の赤字となっております。一般会計より百二十万円の流用いたしまして、市金庫の現存高は五十九万六千円余でございます。



以上で報告の説明を終ります。

。議長(石井潔君)本報告に対して御質疑等ございませんか。

。一七番(嶋貫壮作君)国民健康保険のところですが未納額が二千五百  
二十七万六千円ばかりあるんですがとれない見込みのものかとれ  
うにあるかきょうと御発表をお願いします。

。保険課長(唐沢貞太郎君)お答え申し上げます。

一月三十一日現在ではございませんが三月中に一応欠損処分をしよう  
として準備にかかっておりますものが合併前の各市町村の税で  
ございまして。二十七年度分の税でございましてたがこれのうち  
欠損処分としようとするものが約四千万程度でございます。

それが「そんなに詳しく聞いてないんですが」と呼ぶ者あり」  
一応とれないと思うものでございしますがこれのうちとれない  
ということとは結局欠損処分になっているもので時効になつて  
いるものでございまして、この時効になっているものは二十七手

度の保険税でございますが、これは約五十万程度でございます。それから二十九年度の保険料でございますが、これはいまソロバロを入れているのでございます。合計一、まして八十万程度が現在とれないものというふうに推定されております。

○七番(鳩貴作君)　そうすると、あとのものはとれる見込みのものはありますか。

○保険課長(唐沢貞太郎君)　心配することになっております。「心配なくそれをすきり」でもうわないと、とうとうとするけれども、とれないという額がありやしませんか。それを聞いてるんです。と「呼び者あり」再度お答え申上げます。実際とれないとするものにつまましては、具体的に数字ではなぞうにあ答えることが困難でございますが、「あ」といふようにございすから」と「呼び者あり」時知のほかに若干ございす。

○三番(望月暉作君)一般會計の收入未済額のうちで納期の到来しない実質的の滞納額これはどのくらいあるか。

とくに市税について市民税とか固定資産税とかそういうものについてわかりまうたう金額をホーてもらいたい。

○税務第二課長(伊藤幸太郎君)お答えいたします。

と納付さまでなつてまうてのいわゆる徴収の傾向でございますけれども大体二課といふまうては現在調定額に對しますハ五%を目標にいたるまうて約一億三千五百万を目標に對して徴収に當てているわけでございます。一かゝながらいろいろな事情によりまして滞納の繰越見込みといふまうてと納付さまで迎へまうたあとに約三千百万内外ということに考へてあるわけでございます。

○三番(福岡保徳君)私こんどの立合議員なんですけれども数字には間違ひがありませんで、なけれども一応不審に思ふところが

ありますのでお聞きたいです。

教育費において需用費が足りないのに校長権限とかで二万円もする時計を買うとかあるは一枚千五百円もする鏡を買うとかPTAの負担が多いのにもかかわらず校長権限で現在ほんとうに必要かどうかかわらないような時計を現在にいたって四買うというそういう実の経費を御説明ねかいたいと思います。もう一つ消防費におきまして請負業者でないような責任者のような人から請負的な手伝いに入れては事として果してその金額を支払っているものかどうか二つお伺いいたします。

。教育長(工藤和子君)最初の件お答えいたします。

校長権限の二万円の件であります。これはだいたい校長の裁量で緊急度によって必要かどうかでもなくちやならないというふうなものとその限度内において購入するようにとこういうことを掲げておるわけであります。

○総務課長(兒戸貴君)消防費におきまして現在工事等につきまゝでは地元の分団がこれを受けてやるという形式をとる場合が多うございましてそういうふうな場合には建設課の方で詳細な見積書設計書によりましてそれに基いて一定の金額を請負うという関係でございしますので現在では地元の分団長と責任者がこの設計書に基いて請負うて仕事をします。こういうふうな関係になつておりましてこの金額等につきまゝではこちらの最低価格でやるということになつております。

○二三番(福岡保徳君)最初の教育費の方ですけども緊急と申しましたが一月に学校で買つてゐる時計というものは本当に緊急にするものであるかということと教育長本当にお調べになつたもので、いたものであるかどうかお聞きしたいと思います。

いまの消防のことですが未本のかで詳細に設計をして置いてあるとおっしゃいます。たが本当に設計をしてその金額をやつており

ますかどうか課長さんは御存知ですか、その点をもう一度伺います。

。教育長（工藤和幸君）お答えいたします。

いまの御質問の内容はおそらく神戸小学校の問題であろうかと思いますが神戸小の学校におきまゝでは時間の合図を小使いなり子供がやうおつたんであります。が非常に大事な時間の生活をしてゐる学校において不正確であつたといったようなところからもっと正確を期し得る時計に買換へたいという要望があります。一たんでその必要を認めなければなりません。

。総務課長（見戸貴君）新設の場合には建設課におきまゝて最初から精確な設計をいたします。ただ修繕等の場合には前もって大体このいうものと修繕したいという申込みがございましてその申込みによりましてこちらで果してその修繕費が妥当であるかどうかというところを検討いたします。なお専門的な技術を要する場合には建設

課へ合議をいたし、ましてこの程度で修繕の費用が要求されてきたけれども適當であるかどうかということで適當でない場合にはそれを適當な額まで引上げてやらせる。このつうな方法をとっております。

〇二三番(福岡保徳君) 私はそのやりかたがいいか悪いとかというのではなくて、団員の亦が非常に御苦勞なすうてすることはよく承知しておりますが、地元のわすか離れているところでもって金額を一人一日三百円すうぞばでやっているのは三百五十円、そつういふような査定の方はがあつたもので、すからもう少し慎重に査定していただきたいと思ひます。同じ団員でありながら三百円一方は三百五十円と書いてあつたようなことがありまして、たんでもう少し慎重にしたいと思ひます。

〇二三番(高橋文名君) 私は特別会計の国民健康保険のことにつきまして課長にお尋ねいたしますが、繰越帶納は別で現年度の徴収率と

おわかりならはありえていたと思いますが。

○保険課長(唐沢貞太郎君)お答え申し上げます。

二月末でございますが納期の到来したものに付きましては一応八五％程度行っております。

○~~岡山県議会~~ <sup>(高橋文雄君)</sup> 八五％では補助金のオ一方式オニ方式オ三

方式とありますすがオニ、オ三は補助率に関係いたしません。オ一方式でその後にはオ一かこれは九〇％に徴収率がなうなければ補助金はないということも聞いておりますが、~~岡山市~~ 岡山市のような保険組合の大きなところでは少なくとも年額百二十万の補助金があるものもこれを見すみすとり得ないことと思います。あと納期もいくらもありませんのでありますがいままでの徴収に対する御努力は多謝いたしますがせめて九〇％になつてオ一方式の補助金をもうう程度まで努力をとくに要望するものであります。

もちろん保険課は職員が少なくてすい分おいそがしいでしょう。



徴収という点も相当困難だと思ひますが、もし職員が少なければ増員しても百二十万もらうともうえなひの境いてありますんでせめて九〇％に達するように御努力をとくに要望するものであります。これに對しまして保険課長のお考えをお尋ねいたします。

○保険課長(唐沢貞太郎君)私の方の目安として、三月末までにハセまで行ないたいとぞして、あとの三〇％を四月五月の間にせむとも九〇％でもいいから五月までの間にせむたいというふうに考えまして、臨時も三人ほどおねがいまして徴収に全力を注ぎたいというふうに考えております。

○三番(高橋文治君)ただいまの答弁で大体わかりましたがおそらくこのカーナ式で百二十万もらえるかもうえなひのは、安房郡内の市長村で、鎌倉市とたしか鴨川だけと思ひます。ほかの市町村は全部このカーナ式の補助金もらうておると思ひますので、本年は

ぜひともオ（方式）の補助金をもらえらうにすることを改めて  
私は要望するものであります。

○議長（石井潔君）他に御質疑ございませんか。

（「異議ナ—」と呼ぶ者あり）

○議長（石井潔君）御質疑ナ—と認めます。

○議長（石井潔君）つづいて日程オ六議案オ三号を上程いたします。

（書記朗読）

観光宣伝用パンフレット購入について（議案オ三号）

○商工水産課長（羽山房雄君）議案オ三号について御説明いたします。

昭和三十一年度の当初予算におきまして予算決議をいたしま  
した印刷費をもつて今回下絵ができましたので下絵同様の  
天然色印刷を依頼してこれを購入いたしたく議決をおねがいす  
る次第でございます。よろしくおねがいいたします。（「異議ナ—」と呼

ぶ者あり)

議長(石井潔君) 本案に御質疑ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) 御質疑なしと認めます。よって本案はただちに決定いたしました。

議長(石井潔君) 日程オ七議案オ四号を上程いたします。

(書記朗読)

議案オ四号 館山市立船形小学校付属幼稚園設置について  
。教育長(工藤和平君) 提案理由を御説明申し上げます。

船形小学校の付属幼稚園につきましては、過般の議会に陳情され、まゝその内容を教育委員会でご検討いたしまして、結果陳情書にありまますようなあの場所に船形四百五番地の二でありまますがいはい学校の正門から向って右側の独立建物

であります二十坪、ここに四十名の児童を收容いたしまして施設費約二十万円は地元の寄付によりまして四月一日から開設いた  
いとかなうな原案でございます。御審議をおねがいいたします。

○二七番(嶋貫壮作君)ただいま船形の幼稚園を設置するについて二十  
万円の補助ということがありましてたがそれはどういうのですか御説  
明をお願いします。

○教育長(工藤和平君)お答えいたします。

幼稚園の設置につきましては委員会の考え方としまして運営  
費は原則的に地元負担からとる。こういう基本線はあるんでござ  
います。が船形幼稚園の設置につきましては嶋貫さん自ら私に再三  
交渉がありまして地えで一切の負担をするので開設をするように取  
計うえとこういうお言葉が再三あったわけでございます。

○十七番(嶋貫壮作君)二十万円の寄付をするということは約束しません。  
○教育長(工藤和平君)お答えします。

二十万円と申しませんがこの二十万円ということは申しませんで決  
められまして幼稚園設置基準の最低額の大体概算でございます。  
〔概算でございますますならば前もって船形の方へ交渉してどうして二  
十万円はこれこれ入用だということであやりになればいいと思いま  
すがスポーツ二十万円とされても困ります。なれどもこういう約束を  
したものはないわけです。〕と呼ぶ者ありこれは校長、園長になる  
べき田中校長から最低基準の案が書かれましてこの合計が  
約二十万と向うからかいてきたのをこちらで裁定するわけで〔田  
中校長がこういう意味で書いたか知りませんが田中校長  
は船形地区と関係ないものが書いたものを地区の寄付ということとはす  
ぎやうないかと申してあります。〕と呼ぶ者ありこれは設置基  
準に書いてあります項目の概算がたまたま二十万円に近かったんで  
す。〔だから二十万円の寄付をお求めになるならば地えとくく打合わせて  
下さるべきやと申します。例えていえば私のかは従来の例によって腰

掛とか杭というものはいり用だと思つてゐる用意をしております。どういふふうに地えで何してゐるにもかわらずあなたの方からスポツと二十万円寄付だつたといわれたんじゃ困る」と呼ぶ者あり」そういう意味ではございませぬ。これは(どういふ意味でなくとも)ここで認めればそういうことになつちまうと呼ぶ者あり)いまの机腰掛を地えで寄付されるとその現品で寄付されるものがやはりこの中に入るのであります。(「入る人でもなんでもスポツと二十万円寄付するといわれてはすこぶる迷惑するわけですよ、船形のたいを對象にして二十万円をさせるんです。市会で決議したからただちに船形の市民が寄付しなければならぬ」といふ義務はないわけですよ)と呼ぶ者あり)それは御審議の上でありますから私は原案をとつたわけでありますけれども(「原案をとすときに注意してくださらなまや困る 幼稚園を設置するのは元来市でもって設置してゐるというのが建前です。それを市で一文も出さないで船形(二十万円寄付させる。こんな

無鉄砲なやり方はあるもんですか」と呼ぶ者あり」運営費は若干考えておりますが、「施設費でもなんでも——かり考えて自分達でも来ないところは船形の地邑へきて交渉してそうしてまとまったものを造りてくれとかならいいですけれどもまとまっていなものを二十万円寄付さすそれはまったく困る話ですよ。そんな馬鹿な話はない」と呼ぶ者あり」

○二五番(松本藤太郎君)鳩貫議員の発言中ではありますがこの議案はここで審議するということのような考えかである——申上げたいんですが、そういうことで鳩貫さん御了解がいたいと思います。

私は教育長にお尋ねしますが、この幼稚園設置についていろいろ地えとそう談じてくれたかと思ひます。出す以上どなたとそういう事を打合せてくれたかとの事を伺ひます。

○教育長(工藤和平君)お答えいたします。

幼稚園の設置につきましてはわれわれとしては従来の幼稚園で

大体十分じゃないかという考えをもととしてあったのであります。けれども鳩貴議員はじめ地元から再三の要請がございまして一応基本線も考え直したんであります。どなたに折衝すべきかということについて鳩貴議員とも相談いたしまして結果PTAの副会長に相談してくれとかようなことで藤田氏にいろいろ折衝してくださいます。一か一教育のことでございますのでなおそれに加うるに校長の田中正氏をなかに入れて相談を進めてきております。

○二番(鳩貴壮作君)鳩貴氏が田中正氏をなかに入れて相談してくれということとあなたに甲上げたこととはいはずです。現に本人がここにいてないというるんだから実に間違ひありません。それに田中校長をなかへ入れたとおっしゃって田中校長個人として会ったことはありませんけれども教育長からこういう話があったということとを聞いたためーはありません。そういうふうな不徹底な交渉の仕方ではまったく困る。あなた自身がおもになつて交渉なさるならばわれ



われも交渉に応じもしようが、そういうふうな不徹底なことでも、  
あやリになつて二十万円スボツと出されては困る。

○二番(秋生田七郎君)この問題は慣例と申しますか、地元の関係者とある  
程度の相談がまゝとまり、それから提案されるのが常識なんではないまの  
経過も聞きますと、教育長さんはある程度地元と折衝してある。  
地元選出の鳩貫議員はきかない、かも予算の内容は二十万円と  
すということと前提として、こうした原案がまた非常に、こに  
合違ひがあるようで、すけれども基本的な考えの場合に、たゞいま  
教育長さんは教育委員会として、従来の方針は、一応従来のもの  
で、向に合ふんじゃないか。一か、地元の熱意、要請に対して考え  
直した。こういうことをあつてやうであるということになります  
と、私どもは賛成していいのか、あるいは反対していいのか、わからな  
い。従いまして、もう少し基本的な考えかと申しますか、まゝと、また地  
元と、こんな一休となつた意見というものが、でるまで、この審議を

保留してーかるべきだとかように考えるんであります。もう一回その点につきまして教育長さんの御答弁をおねがいしたい。再度申します。結論的に申しますと従来の幼稚園でたくさんいやなにかという考えを持ってあったが地元の要請があったんで基本的考え方を直してこの原案を提出した。こういう御説明である以上わけわけとしてはその基本的な考えを直したことも結構だと思ふんですが、実際問題としてこの提案した三十万の問題もいま甲一まーたように地元の了解が釈然としていない。従いまーてこの問題はそういう信念的に確信をもつて御提案になったかどうか疑われると思います。わけわけはもう少し地元の意見がまとまったら示していただきたい。こんなふうに考えられる。その点もう一回はっきり御説明がございます。

○三番い沢太助君）ただいまの船形の件であります。私は早川教育委員からの要請に基きまして船形の学校（幼稚園）の件について意

見を聞きたいというので再三平紙であるいは電話等により  
まゝて呼ばれたんであります。学校へ行ってみますと鳩貴さ  
んもおられる、神作教育委員もおられる。先に陳情してある意  
見に基きまして逐次早川委員から質問がありましてその質問  
に対してお答えをしておたのであります。

それは早川委員としては地元の要請実情から考えても、とでもあ  
るという最後の結論に達します。それについては市営の幼稚園は  
月謝が三百円で現在赤字が二百万もでておりこれを百円の値上げ  
をして四百円にして行けば市の赤字も半減することになるんで値  
上げをすることに對してはどうかという質問もあつたんです。わけわ  
けは開設をいたいたいということと幼稚園が非常に不均等な行き方  
からいまして四百円になつても止むを得ない。ぜひ開設をしてくれと  
いうことになりましてここまで意見がはっきりすればわけわけは  
開設してもよろしいということによって四十名内外の児童を収

容するについて内容の整備については本年やります。これは約束  
—たんであります。—か—二十万という金額に対して地元で  
これこれ負担するという約束はございません。机腰掛その他  
黒板 そういうものの内容の整備については地元で責任を負う  
ということとは約束をしております。以上でございます。

○教育長(工藤和平君)ただいまの二上番さんに対する御返答にもなりますが、いまの小沢議員の話のように船形幼稚園の設置問題については施設の一切は地元で持つということとは私鳩貫議員御自身から再三承っておりますであります。がたまた私の発言のありました三十万円という線です。いろいろ食違ひがあるようにありますので、ここで御審議がやがえまんでしたならば保留しても止むを得ないと思います。

○三番(伊勢仙之助君)私はこの幼稚園の設置問題ですが、この前の陳情書においてお—かりさうけるような非常に内心はおも

—ろくない気持ちにあるんですが大体においてここにくる議員が船形地区の全部の代表者の意見であるというふうには解せないような場面に当る場合があるんですが設備内容を約束するということは基準項目にあるところの最低の基準のものは引受けますという解釈に立たなければという言葉もいえない—受ける市側も内容の点については約束するという言葉があれば教育の基準項目の設備のものだけは地元が負担するという熱意があるというふうに解—てくださったろうと思っておりますが幼稚園設置について二年も三年も前から陳情がとておりますがなぜ急速に設置されないかというのやはり地元の熱意というものがまとまっていけない点に今日まで延びてきたんじゃないかと思ひます。内容のことについては約束するという言葉であります。この言葉が内容の整備には市では二十万円かかる。先ほど教育長もお—や—っているようにこの内容の整備について

て最低二十万円の予算がかかるからその整備がされるだけの地元の寄付がなければ従来そのままでも止むを得ないじゃないかという市当局の考えもあります——児童数からみても四十名とありますからこれは一年制か二年制でありますか、そういう点については承知してありますませんが一年制であるか二年制であるか、この四十名というものがはつきりと必要かどうかという点の見込、こういうものも——つかりと~~調査がなされて~~調査がなされているかどうか職員の数、あそこは御承知の通り坪垣とか便所、そういうものをつくってやらなければ、そのままで、机や黑板だけで開設は困難だろうと思います。多少なりとも坪と便所をつくってやらなければ、本当の幼稚園としての姿では充足できないと思います。そういうふうな施設上のいろいろな問題がからんでおりますからこの問題は地えと——ても議員さん方はもちろんでありましようがPTAの役員父兄の方々の代表、そういうったものが一丸となって私

たちは船形の代表ですという形で市当局といま一度慎重にお話し合いがって結論のもとところで用談一たうよろいんじゃないかと思ひます。(同感と呼ぶ者あり)そうして四月にまだ期間もありますからここ一週間か十日の間でも結構でございますがさらに折衝を正式の船形地区の代表という形を作った上でお話し合ひをなさって議案として提出されるなりして設置していただいた方がいいんじゃないかと思ひますが私はこれは地元の熱意いかんによつて決定する問題であると考えますからその点地元の方の意見を改めて鳩貫さんなりい沢さんその他の議員の代表の方々でも現在考へております地元の意見というものさもう少し聞かしていただきたいと思ひます。(休憩と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)ーしばらく休憩いたします。

午前十一時五十分休憩

午前十一時五十二分開議

○議長(石井潔君)休憩前に引続いて会議を開きます。

○議長(石井潔君)ちょうど正午になりますのでこのまま一時まで休憩  
さいたーたいと思います。さよう御了承ねがいます。

午前十一時五十三分休憩

午後 一時 五分開議

○議長(石井潔君)午後のお席議員数三十名これより休憩前に引続い  
て会議を開きます。

○教育長(工藤和平君)議案オ四号の館山市立船形小学校付属幼稚園  
の案件に関りましては私の説明の不備のために議事進行上に  
多大の支障がございましてことをおわび申し上げます。



つきまゝであの説明のなかにはありまゝた地元負担の二十万円ということは児童の施設に必要でありますところの便所、ブランコすべり台その他児童の教鞭物といったような最低基準の一切のものを地元で負担なさるところに訂正したいと思います。御審議をおねがいします。

○三番(伊勢仙之助君)この施設の内容について細かい点をおまゝにいたしてですが設置基準項目のそれぞれのものごとの程度御用意なさる予定ですか例えば机がいくつ腰掛いくつ黒板いくつというところから一年制にするか二年制にするか四十名という見込数がかなり確定的なものであるか見込数についてはっきりとしたPTAなりその他いろいろお話会で確定にこの程度が見込まれるというのかその点の御説明をおねがいしたいと思います。

○教育長(工藤和平君)お答えいたします。

もともと船形地方の児童を収容するといえますと約百名ない

百二十三名の子供を收容する建物が必要であらうかと思ひますが  
目下その設備もございませんのでとりあえず先ほど申しま  
したところに約四十名收容という線を出したわけでございます。  
従つて机、腰掛は約四十脚分それから小学校の方のオルガン等も  
利用したいとこういうふうにも考えております。それから  
一年制課程にしたいと思つております。そして保母につま  
まはまだ新しい児童の募集が確定いたしませんのではござ  
りませんか。それから他の五つの幼稚園の保母の数を  
いろいろ勘案いたしましていゆる適正地区の学級にするこ  
とによつて生み出した保母を船形へ持つていきたいとこ  
ういう考へでおります。

○三番(望月暉作君)いまの教育長の説明でわかりました  
が結局どうなんでしょう。幼稚園を設置するについて二十  
万円といふことは堅決して大体地元の熱意によつて負担  
してもらうといふことと二十万

用を取消したわけでございますね。そうでありますならば私は船形の学校の付属幼稚園については地元の皆さんが長い間の待望でございますので私ももちろん賛成しますけれどもこの四月一日に間に合うようにスムーズに解決していただくことを希望いたします。

○三番(伊勢仙之助君)私も一応設備の設置基準項目を地元でどうにかしてくれるという所の点の話し合いがすっきりしているならば別にこの案を保留に—なくても—ここで通—ていただいて結構だと思えますが大体あの設置される場所はあまりよくありませんで将来は他へ幼稚園を建てていただくというふうな考え方に立って暫定的に止むを得ず校庭内に置くというふうな考え方でどこまでもそういうふうな考え方の上に一応この案を通—たいと思えますが将来も長く恒久的な施設をやられるということについては賛成がたいんですがそういう案をお含みの上で施設においてもあまり予算

を多くかけてまたじきにこゆすような状態にならないようにせう  
いうところを勘案して地元の負担もあまり極端におかけにならない  
ようにまた児童教育に不便のないように大変むずかしい注文の  
ようであります。が将来ほかに立派なものを建てるんだという考  
え方のもとに便宜的に開設するんだという方向に考えまゝて本案  
を賛成する次第であります。

○議長(石井潔君)他に御質疑ございませんか。

(「異議ナ」と呼ぶ者あり)

○議長(石井潔君)御異議ナと認めます。よつて本案は原案通り決  
定いたしました。

○議長(石井潔君)つづいて日程ヲハ議案ヲ五号を上程いたします。

(書 記 朗 読)

議案ヲ五号 昭和三十一年度事業分担金の賦課総額について

○農産統計課長(吉田耕一君)五号議案につきまゝて御説明申上げます。

現在実施してあります神余地域のい田地事業に関係運をもちます神余の北沢地域でございますが本地域が大体三町五反余でございますが下の神余安房田地域におきまゝては本年度の十二月の市会におきまゝて承認をいただきまゝて現在完成いたしたのでございますが継続追加いたしまして本地域の三町五反につきまゝて国のい田地として選定を得たいというふうに考えまゝて現在申請中でございますが大体可能性が強いというような土地改良事務所の方からのお話でございますので指定をうけられるというふうな考え方から本案を提出した次第でございます。大体総工費が四十二万九千円でございますがその約半分二十二万二千百円を地入分担保金として御決定をねがいたいという考えをわけでございます。なお地入受査者につきまゝては御了解を得ているような現情でございますので何分の御決定をおねがいたいと思つわけ

でございます。(異議なしと呼ぶ者あり)

○議長(石井潔君)本案に対して御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井潔君)御異議なしと認めます。よって本案は原案通り決定いたしました。

○議長(石井潔君)つづいて日程第九議案第六号、議案第七号、議案第八号一括上程いたします。

(書記朗読)

議案第六号 一時借入金について (一般会計)

議案第七号 一時借入金について (公益殖産)

議案第八号 一時借入金について (国保会計)

○総務課長(兎戸貴君)第六号議案について御説明を申し上げます。

本案は一時借入金の限度額に關するものでございまして三十三年度

におまゝ一では三千万円を限度として一時借入金一たいと考えて  
おります。一か一ながら三十三年度と同じく議決は一ていただきま  
しても全然一時借入金を一ないで運営一たいという考えをもつてありま  
す。

○厚生課長(神作啓次郎君)議案カ七号につきまゝ昭和三十三年、度特  
別会計公益債屋予算内に充てるために借入をいた一たいと思つて  
おりますのでよろしく御審議をおねがいいたします。

○保険課長(唐沢貞太郎君)議案オハ号につきまゝ御説明甲にげます。  
本議案は昭和三十三年、度甲の予算内支出に充てるための一時借入  
金の限度額についての議案でございますが三十三年、度の実績を申  
上げれば一般会計からの流用に止まりまゝ一時借入金は現在一して  
ありませんでございます。以上でございます。(異議なし)と呼ぶ者あ  
り)

○議長(石井梨君)御異議ございませんか。

（「異議な」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議な」と認めます。

よて議案オ六号、議案オ七号、議案オ八号、原案通り決定いた  
まうで。

議長（石井潔君）つづいて日程オ十、議案オ九号を上程いたします。

（書記朗読）

議案オ九号 起債について

○総務課長（完戸貴君）議案オ九号について御説明を申し上げます。

本案は地方債に関するものでございまして、船形小学校の危険校  
舎分として起債を三百五十万円以内、それから船形漁港修築費  
担金分を二百八十万円以内と決めまして、最低各二百万円を確保  
いたうたいと考えるものでございます。（「異議な」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ございせんか。



（「異議な—」と呼ぶ者あり）

○議長（石井潔君）御異議な—と認めます。

よって本案は原案通り決定いた—ました。

○議長（石井潔君）つづいて日程才十一議案才十号を上程いたします。

（書記朗読）

議案才〇号 館山市職員定数条例の一部を改正するについて  
○総務課長（完戸貴君）議案才〇号につま—て御説明を—ます。

本案は昭和二十七年条例才四十二号で制定いた—ました館山市職員定数条例才二条の一項中才七に決めております消防署の定数を三十七人から四十二人に改正—ようとするものでござ—います。現在消防本署には二班編成で職員が勤務—ておりますが、一班が九名でござ—います。火災にな—た場合には八名でも動いた—ま—て望桜におつたものが下へまで無線と一般電話連絡する—たにな—てお—て全然望桜に人が

いないという結果になります。ですから市内に同時に火災が発生いた  
 ーまーた場合には非常に消防上支障がございますので今回四名  
 をふやーまーて火災が発生ーまーた場合には望桜に一名無線電話  
 の担当が一名ゆへから一般電話連絡に一名を配置して万全を期  
 たいと考えるものでございます。（「異議な」と呼ぶ者あり）  
 ○議長（石井潔君）御異議ございませんか。

（「異議な」と呼ぶ者あり）

○議長（石井潔君）御異議な」と認めます。

よって本案は原案通り決定いたーまーた。

○議長（石井潔君）つづいて日程才十二 議案才工号 議案才二号 議案才

十三号一括上程いたします。

（「異議な」と呼ぶ者あり）

議案才二号 非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償

に關する条例の一部を改正するについて

議案オ一ニ号 館山市公民館条例の一部を改正するについて  
議案オ一ニ号 館山市消防団条例の一部を改正するについて  
○総務課長(兎戸貴君)オ一ニ号議案は昭和三十一年に定めまゝた条例ニ  
十三号による非常勤特別職の一部の報酬を改正しようとするも  
のでございます。

この別表のオ一号表にあります消防司令は専任署長がでまゝ  
た現在におきまゝては不要になりまゝたのでこの際削ることに  
いたしたいと思います。

オニ号表のなかで固定資産評価補助員の報酬が六百円を七百円に  
いたしたいとするのは民間の手当と手間を致させるためのものでござ  
います。

オ五号表甲の消防委員の報酬につきまゝては年額千二百円で  
ございまゝたが他の委員と不均衡の面もあると思われまゝるのでこれを

是正して三千円にしたいと考えるものでございます。

。教務庶務課長(鶴沢寛覚君)議案オ十三号について御説明いたします。

現在の館長、副館長、分館長の報酬は館長が二千円、副館長が千円、分館長が二千円、副分館長が千円となっておりますのをこのように増額したいと思っております。

。総務課長(完全貴君)議案オ十三号は昭和三十年の三月に決まりました条例オ七号による館山市消防団の条例の別表の二号を改正しようとするものでございます。

団長の年額報酬が従来二万円でありましたものと二万五千円に副団長が五千円でありましたものを七千円に本部長が三千円でありましたものを四千円に、副本部長の千五百円でありましたものを三千二百円に、分団長は二千五百円でありましたものを三千二百円に、それから副分団長は千五百円でありましたものを千八百円に、班長は千円でありましたものを千二百円に、団員は五百円を六百円

に改正しようとするものでございます。とくにこのなかで本部副部長は分団長をやったもののなかから任命することになつてありまして、いわば分団長よりも先輩格にあたるといふ理由で分団長と均衡を保つためにとくに増額した次第でございます。

○議長(石井梁君) 本案に対して御質疑ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○三番(吉田勇治郎君) ちょっとお尋ねしますが消防国の報酬が上がるということは結構なことがありますがこのなかに若干不均衡じゃないかと解釈されるところがありますのでこの実はどういふわけでござつたかということをお尋ねします。

まず一般団員消防団の職にあるものはこのくらいあげてもまだまだ不十分と解釈するものでありますがこのあがる率が特別職の消防委員のあがる率といつてさか趣きを異にしてゐるようですがこの率をどういふふうにみまゝで確定されたものかその御説

明かほしいものです。なせならば特別職のあがる率一位に一般団員の団長以下にいたるまでやるのがせうな訂正の仕方じゃないかと思ひます。その点についてお伺ひします。

○総務課長(兒戸貴君)消防委員と消防団員のあがる率が違ふという御意見のようでございますが事実違ひます。この理由といふ――それはどう森い理由はございせん。たゞ消防委員はほかの委員と同じく重要な任務に擔つてあるのでございますが年額千二百円ではあまりにも少ないではないかとほかの委員と比較いたしまして不均衡を欠いているといふので千円にすればある程度均衡を保たれると考へたものでございす。消防団員の方はやはりこれは名誉職でございます――となつていた――でも消防団員になりますとこの苦勞といふものは非常なものでございす。六分市民を火災から守るといふ重要な任務を持つておるのでございす。がなお御意見によりましてこれを増額していく分には

一向差支えありませんがわれわれといふ――まゝでは一応この線でご  
御了承ねえれば結構であるところというふうに考えて提案  
した次第でございます。

○三番(吉田勇形郎君)御趣旨はわかりました。でも得るならば上を薄く  
して下を厚くするような直接その部署に当てらゆるような団  
長以下一般団員を相当の率にあげられるようにこんごこういう  
改定がありまゝたならばとくにその点に留意をされていただく  
ように要望いたしまして承ります。

○六番(田村長兵衛君)公民館の問題につきまして公民館の整備の問  
題は……(発言不明確につき聴取不能)公民館にも分館長や……  
(同)という方を送とするか教えていただきたいと思います。

○教養庶務課長(鶴沢貫資君)御説明いたします。

分館長は旧村の六つに公民館がありましてそこに一名づつの分  
館長があるわけでございますが地元の意向を十分尊重いたしま

して教育委員会が任命することになっております。

二十六番(田村茂兵衛君)それは分館長副分館長の選出方法はどうかということですか。分館長を選出する場合にはどういう方法でやっておりますか聞きたいんです。

教委庶務課長(鶴沢貫覚君)地元には分館の運営審議会委員というものがございましてその会議におきまして地元の意見を徴しまして任命いたしております。

二十六番(田村茂兵衛君)その審議会委員というものは……(発音不明確につき聴取不能)私は長い間分館長が毎年毎年……(同)聞かれてもさっぱりわからない。聞くとところによると……(同)なんにも仕事してない。どうしているかということも聞かれたときに私は説明がつかないんです。五年分館長みたいな気持ちを持たれて困っちゃう。

教育長(工藤和平君)いまの御質問によりますと分館長はあまりは事をしているんじゃないかという御意見のように承ったのであ



りますがわれわれといたーまーては公民館の運営企画、実施と  
こういう面で館長副館長分館長副分館長はあーろ推進  
力になっておるんだろうと思つてあります。がまたどうやって  
もらわねば公民活動の推進にはならないわけでありまして、こ  
ご一層鞭撻いたーまーて御期待にどうしようにーたいと思ひます。  
○六番(田村茂兵衛君)添うようにーたいと思ひますといふのはいつもあー  
やるがどういふことですか。

○教育長(工藤和平君)逃(ゲ)ロ上じゃございまして、せいで努力いたーます。  
○六番(田村茂兵衛君)私のいふことは審議委員会をー(発言不明確につき  
聴取不能)審議委員のたばーなんです。そつういふー(同)そつを  
聞きたいです。

○教育長(工藤和平君)各地邑の学識経験者と申ーますか。そつういふ人の  
推選をいただきまーて公民館運営審議委員会をこつをー心  
選出したーまーてさらに教育委員会にそつをかけまーて選出

ーたいとくういうふうな段取りになつております。

○市長(田村利男君)各地区から送とされた審議会、審議委員の送ともあるいは地元の要望に添っていないことがあるかも知れませんでありますので、こんご地元から送とされる審議委員によつて分館長もまゐるわけでございまして、審議委員の充実あるいは送との場合にはとくに地元の要望をなお詳しく聞いた上、委嘱するように努めたいと存じます。

○一六番(田村兵衛君)学識経験者はどなたが送ぶですか。

○教育長(工藤和平君)社会教育の面においてこの方がまず働ける方であろうと学識においても識見においても社会教育の面においては、ずい分働ける人であらうという社会通念の上からこの人というふうな推送を受けたものをもみなして決めているわけでございます。

○一六番(田村兵衛君)いまあなたは推送ということがなければ……(発音不明確につき聴取不能)あなたが決めるんですか。推送委員はだれで

すか。(議事進行と呼ぶ者あり)次回へ回ります。

○議長(石井潔君)十六番議員さん答弁保留なされていますか。

○一六番(田村長兵衛君)次回へ回ります。

○議長(石井潔君)他に御質問ございませんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

○三番(望月暉作君)議案オ一三号の団員報酬のところでありますが先ほど総務課長から六分市民を火災から守るというお話でございますが誠にその通りでございますが報酬については改訂していませんでした。

財政がいろいろしているからという理由になると思いますが今回止むを得ずこれをあげたことではないかと思えますが、つぎの改訂の場合はほかの各委員非常勤の職員ともよくにらみ合せまた他市との状況もよく研究してもうクロー上げる意志があるかどうかなんとかしてこういうふうに支えて増額するといふ事はならば私は賛成します。

○総務課長(兎戸貴君)お答えいたします。

消防団員の報酬につきまゝては各市全くまちまちでございます。成田の最低百円から佐原の最高一千円あと二百五十円とか三百円とか六百円とか七百元とかいろいろございますがこのように非常に不同でございます。と他市とは比較がたい状況でございます。お説の通り消防団員は終始火災のために御苦労してくださるのでございまして最近の状況といつても非常に各商売がいそがしくなりまして消防団員に任命されるということとは本当の犠牲的精神にまたなければ十分な活動も得ないという状況でございます。私どもといつても市は市の財政が許すならばこれを年額制でなくて月額制にも持っていただければあるいは実際的かとも考えられますが、いままたなちにとつていうこともできません。その際には一応また考えまして提案をいたしますのでその際よろしくおねがいたいたいと思ひます。

議長(石井潔君)他に御質疑ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井潔君）御異議な—と認めます。

よって本案は決定いた—ました。

○議長（石井潔君）つづいて日程才一三議案才二四号を上程いた—ます。

（書記朗読）

議案才二四号 手数料条例の一部を改正するについて

○戸籍課長（高木哲三君）二四号議案について御説明甲上げます。

これは住民票の抄本の手数料一枚三十円を四十円に改めるのでござい—ますがこれは昭和二十七年に制定になり—た戸籍の謄抄本なみに三十円になつており—たが戸籍の謄本が昨年の八月一日より戸籍手数料の改正により—て四十円になり—たので—んど四十円にいた—たいと思つたのでござい—ます。なお果下十六市の状況をみますと羽志野市が三十円、東金市が四十円あり

は全部五十円になつております。以上でございます。

○議長(石井潔君)御異議ございませんか。

○三番(伊勢仙之助君)私はこの手数料ともちろん関係はあるんですが、手数料と代書屋という問題であります。新しく生まれる市には代書制というのがだんだんなくなりまして、市民が窓口にくれば、それでも自由に代書の手をわすりわさずに帰るといふ進んだ市が多いんです。それにはもちろん紙代とかいふといった問題で、手数料も関係してくると思います。が、窓口へきてないでまごつかない、もうに市民が気持ちよく自分の足りる用を市の職員だけの処理で済まして、帰れるといふような方法について、市長さんはどのような結果のことについてお考えになつておりますか。新しい庁舎を建てるといふことを仮定しましたとき、代書制度という問題についてどういふふうにお考えになつておりますか。手数料と密接した関係がありますから、市民が実質的に代書に払うのも市の手数料に類す

るというふうに解しても間違いないと思うんですが、そういう案について窓口のサービスという案について庁舎を建てるといったような場合にはどういうふうなことをお考えになつてありますか、手数料と市民に対するサービスというふうな問題についてちょっと意見をお聞きたいと思ひます。

○市長(田村利男君) 市民のサービスということとは常々考へてゐることでございまして、現在代書はありますけれどもごく最近からは簡単なものは窓口であり、こゝは代書に書いてもらふということをやらせないように命令してございます。従いまして市民が市役所が不親切だから代書をやつてゐるというのではなくて、従来代書というものに対する觀念上代書へ飛ぶつくのではないかと思ひます。

それは別といたしまして、將來二年二年先のことはわかりませんが場所の都合のつぎ及びまた市役所職員の出入をあげても市民サービス像というふうなデパートの入口にこういう机をおいて

きいな子があります。あういううなものゝ千葉市にはあ  
いてあります。従いまゝあういううなものゝ市民案内係また必要  
があればいろんなものゝ総合して戸籍がやる住民登録とかいろん  
なものゝまとめた市民課というううなものゝえ直したいということも  
考えられますが、差当りて市民案内係という小さなボックスをつく  
る考えはもつてあります。次して代書へ行て書いてもらふとい  
うううなことはとくに戸籍課長に命じてそういつことのないよう  
にせよという指令は出してあります。

〇二五番(松本藤太郎君)手数料の十月増額ということは非常に市民に  
対しての負担ではないかと思ひますが、いままでの扱った数十円値  
を上げたことによつてどの位増額になるか教えていただきたい。

〇戸籍課長(高木哲三君)三十二年の一月から十二月までのでございますが  
有料が二千七百八十件でございます。ですから二千七百八十円の  
増収ということになります(「異議なし」と呼ぶ者あり)



○議長(石井潔君)御異議ございませんか。

(「異議ナ—」と呼ぶ者あり)

○議長(石井潔君)御異議ナ—と認めます。

よって本案は原案通り決定いた—ました。

○議長(石井潔君)つづいて日程オ—四議案オ—五号を上程いた—ます。

(書記朗読)

議案オ—五号 幼稚園保育料徴収条例の一部を改正するについて  
○教育長(工藤和平君)提案理由を御説明申し上げます。

幼稚園の保育料につきま—て三十二年度今年度の幼稚園の費用を  
保育料を差引いた市の持ち金は二百九十万円でございます。

それに対—ま—て新年度には市の持ち金が約三百六十九万円とい  
う数字になるようでございます。この数字は三十二年度の平学  
校の需用費四百万円にやや近い金でございますから、義務教育の

優先の立場と限られた市の財政というものを考えまゝてさらに千葉県下の各種の公立幼稚園の授業料等も勘案いたしまして結果現行三百円を四百円に値上げの案を持てたわけでございます。御審議をおねがいいたします。

○三四番(飯田義男君) 百円ねあげたということは非常に重要な問題だろつと思ひます。幼稚園は事實上最近におきまゝでは貧乏な子供もみんないれたい。いわゆる半義務教育の段階にまできております。従つて幼稚園教育というものが将来だんだん普及徹底されていくことも確信するんですが百円ねあげることによつて家庭的に経済的に困るのであげないということも考えられると思ひますが、いずれにしても諸般の情勢を聞きまゝたが四百円は止むを得ないというふうなことでございしますがただ四百円あげることによつて新年度の持ちこたはなくなるのかあるいは市の財政にどのくらいプラスになるかということについて一応御参考に教育長さんの御意見を賜りたい

と思います。

。教育長(工藤和平君)お答えいたします。

月々の増額によりまして園児が約千名でございますのでその  
十一月分約百十万円ということになるわけでございます。

。三四番(飯田義男君)そうですね。大体百十万円位の持ちこ  
とで済むわけですね。大体百十万円位の数字だそうですね。

その点は考え方によつては幼稚園の園料を百円あげて百十  
の増収をはかる。これは市長さんの方へおねがいでございますが百  
の捻出ぐらいは言葉がちょっとおかしいんですが冗費を節約して  
百十円浮くということとを考えます。一かーなぐらいここにいたつてど  
うこういつてもしーうがありませんが四百円に上つてまた二年三  
経つて百円上げるんだ二百円あげるんだということになりますと  
問題だと思ひますので将来経済事情によつて違ひますが当分  
の間に上げる意思はないか。それと同時に百円増額したことによつて

各幼稚園の需用費施設費にこの百円を充ちて幼稚園教育の  
拡充を図る意志があるか この二つについて市長さんの御回答をお  
ねがいたします。

○市長(田村利男君)お答え申し上げます。

幼稚園即ち義務教育というふうな線に大体なつてきているこ  
とは事実でございますが、一かその反面千人の生徒だけを收容  
して一年の小学校入学児童は千五百名ございまして千人が特別教  
育さうけるわけですが五百人の人が義務教育的な幼稚園であり  
ながら行けないという、むしろ公平を期する上におきましてやはり  
授業料と保育料というものは考慮しなければいけないと思ひます。  
一か一こと一上げまして来年早速また百円上げるとか二百円上げる  
とかいうことはいまのところ考えておりません。

なお幼稚園の設備拡充と申すことでございしますがあくまでつくった  
からにはいい幼稚園でなければなりませんのでできるだけ内容が

よくて上げたいと考える次第でございます。

○三番(飯田義男君)市長さんの御意見よくわかりました。ただ百円増額をムダにしない。いわゆるこれだけ市が楽をするということではなく幼稚園教育にこれだけをなんとか充當して拡充しようということとなり私は一五号議案に異議はございません。

○ニ番(高橋文治君)保育料三百円を徴収しておりましてたときに六百何十万かの市の教育費を食っておりということとは重要な小中学校の教育を圧迫してあるのであります。百円あげてもまだ三百六十九万も市の教育費を食っておりわけなんです。教育長さんは幼児教育の方より義務教育の方を重点的にやるというふうなお考えであります。たが今日の船形の幼稚園設置も確定したんですが保育園が現在館山市には那古の純真保育園と九重の保育園があるわけですが那古の純真保育園は入学の一年前から保育をしてさらに一年は保育園に入園させてい学校へ入学させる。これは

ミヤしてゐる方であります。一かるにこの幼稚園の方の保育料と九重館野の保育料と比較いたしますと、格段の差があるわけでございます。

はじめ教育長さんは幼稚教育より義務教育を重んずくという前回の市会に答弁されておたんですが、均等という見地からいたしまして九重館野の保育園の方も陳情いたしますれば、幼稚園に比替えて下さる御意思がありや否や、ことと云ふと、つおねがひいたします。

の教育長(工藤和平君)お答えいたします。

義務教育優先はたゞ甲上げます通りこれは変りありません。なお保育園と幼稚園に切替えるかどうか、こういうことにつきましてはその設立の趣旨がその土地に即した意義をもつてあるものと考えるのであります。かかるが故に現在の段階では現行の保育園を幼稚園に切替える考えはもっておりません。

○三番(高橋文治君)それでは私は長谷川事務所長さんもお見えになって  
あるのでお尋ねしますが現在保育園と幼稚園では非常に園  
児の突からも差がある。なんらかの方法をもって均衡という見地  
からいたる――ましてその突将来でできるや否やお伺いします。

○福祉事務所長(長谷川広治君)現在の三百円の幼稚園の保育料と調整  
をとるといふことはやや困難かと存じますが四百円の場合にはほぼ調  
整がとれるというふうに考えております。(了解と呼ぶ者あり)

○二番(腸田順一君)午前中から幼稚園の話が――は――はでるのであります  
が私はこの機会を捕らえて当局のお考えを承りたいと思つてあ  
ります。

教育委員会の方の所管に幼稚園あり福祉事務所の関係に  
保育園ありもともとの目的は教育系統であり福祉事業で  
あるという点について意義は異りますけれどもその地方における  
幼稚施設としてある意義を持っているのであります。経営面に

おいては非常に母親の要望がありまして似通った経営をしておる  
のであります。幼稚園の方は教育委員会の方の所管でとすると  
保育園をなんといひますかあんまり尊重しない。保育園の方は幼  
稚園の悪口をいふのが實際の姿というふうに考えております。

——教育長さんも経験がないと思ふんだが一体どういふふうな  
地域性に基いたところが幼稚園でなければならぬといふはど  
ういふ地域には保育園でなければならぬといふ一応の定見があつてし  
かるべきものと思ふうんであります。どうも幼稚園の方を希望す  
る向きがだんだん多いように見受けるがそれは——がない母親の見  
栄といひます。幼稚園の方はハイカうで度々心を満足させるに都合がい  
いというふうな意味において母親がみな幼稚園を希望する。實際私  
の方でも希望しております。そして一面において午前中なども船形の  
幼稚園のときに地元の要請というておられるが執行部の方では  
指導的意見を持っておられない。船形あたりの現情はほのかに聞



くに保育園の方への入学が殺到して幼稚園の方は希望しない実情だと。現在の保育園を親たちは尊重しているというふうにもうけとれます。一体執行部といふより、かかる地帯は幼稚園でそしてその次に指導する。かかる地域は保育園という一、かりと定見はどこにありますかおさかせねがいたいと思います。

教育長(工藤和平君)お答えいたします。

幼稚教育も重大な教育であります。故にこれは教育の機会均等の面から申しますならば各地にあつて差支えないという考えを私は持っております。ただ教育財政が市の財政のワツのなかにあるという関係から財政とにらみ合わせて勘案してその設立を考えていかねければならぬと思つたのであります。一かも従来ありましたところの幼稚園なり保育園というものはたゞ先ほど申したようにその土地に適したいわゆる適地適作であらうと思つてあります。かような点から考えましてできれば各所に幼稚園

を設置したのでありますけれども現段階ではそこまでいっていない。かるに船形におきまゝでは非常なる熱望でありまゝてほとんどこゝで金を持つから認可をしてくれとかようなことで一かもし純真保育園それから東京都の学園の幼稚園でありますけれどもに子供がはみだしているというような非常に同情すべき関係にありまゝたのでこれを認めたのでありまゝて私どもの考えといたしまゝては幼稚園がここに必要だからというのでさういふ定見のもとにいままでの幼稚園を認可したわけでございます。

〇二番(腸田順一君)この際教育長さんの御意見とはつきりしておきたいと思ひますが、館山市内において保育園と幼稚園を併行してありますところは那古地域だろうと思ひうんであります。

両方とも施設があるやゝてやがては財政のよろいすところには各地に保育園と幼稚園を併行させて理想的にはおつくりなるといつぶつに解釈してよろいですすね。

の教育長(工藤和平君)よろしゅうございます。

○九番(黒川佐太郎君)幼稚園問題には理想としては各地に二年制を設置するということでありますが、一財政の面からいうてたゞいまも教育長のお話ではこれが許されないというふうなことでございまして、一からは機会均等の意味から申しまゝ市として二年制と一は二年制を優先的に各地に設けるということとを一心お考えぬがいたい。

さくところによりますと二年制で十分だという議論もあります。がまたある校長は二年制じゃなくてはならぬという御意見だったとしても、いゝてあるんですが、そういう面はわけわけ素人なのでよく解りませんので教育長さんの方で十分御検討下さって二年制で足りるとするならば市は普遍的に各地に二年制の幼稚園を設置する。そういういたしますれば幼稚園はかかりすぎる。こういう議論も解消するであろう。一従いまゝて教育予算が多い。パーセンテージは上がっておりますが、実際的にもっとも市として大切な立場にある義務教育の

貴庁というものはその一々寄せを食う、高等学校も持つてお  
るということもよく勘案されましてこの幼児教育というものを  
根本から立直すという御研究をねがいたいものとなる次第であ  
ります。

○ニ番(吉田勇治郎君)幼児教育についてただいまいろいろの御意見見御説  
明を承わっているうちに私はなんだか遠いところのような感じをうけた  
またま十九番議員さんの御質問があります。まだ仲間に入っているの  
かなという感じをうけたばかりであります。

私はいままでの説明をききその上につきまゝ一応十九番議員から  
の発言もありましたが一応施策としてこれを考えるときに全市の二  
帯にどうするかということが根本の問題になると思つてあります。が  
それを解決するにおいて私は三百円を四百円に上げるといふことはい  
まいったような理由でなんにもならぬ、機会均等の意味から、その機  
会を早からうゐるが故に百円上げていったならばいつごろになつたらそ

れが完成できるかでなければそれを早からうゐるために現在の三百円を百円上げるのを止めてこれを千二百円ぐらいにいたしたならば二三年後においては機会均等になるといつゝいすれかを送んでいただけるかどうかその見通しについてお伺いしたいと思います。

なお申上げたいことは一般市民のいすれがこつゝいう思惑を蒙るという観望からうたらう上げない方がいいと思ひますがある程度までの目的を達するためには止むを得ないものと思ひます。その点でも私の説明が悪ければ必要において補正説明をしますがお尋ねたいと思います。

○教育長(工藤和平君)お答えいたします。

百円の値上げが将来どういつ見通しであるかこつゝいう御質問のようには解釈したのであります。これによつて当分維持できると千円はりさらに上げるというようないふことはいま考へておりません。これで当分いけるといふ見通しでございます。

〇二番(吉田勇治郎君) 実はいまの教育長さんの説明は現状維持的の  
御意見じゃなからうかと思うんです。だから施策の面において市長  
さんがいつかいわれた通り独立採算制あるいは全市一般にこれを  
やうて行くような方法に進むかということになりますか。そのいず  
れかになるためには百円上げることも、百円上げたからといって人  
件費その他の増増によつて相殺されていく、いままでの市費の持出  
しには変りはないという解釈です。だからそのいずれかを送ぶため  
には百円上げて運営が当分まかなえるということじゃなくして  
政治的目的を達するためにこの際四百円でやうていつて何年後には  
みんながこの恩恵がうけられる見通しがあるか。十年、二十年とかかるよ  
うであつたならば百円上げるのをおやめになつて七百円ないし千二百円  
ぐらいにして二年、三年後に本質の姿たにかえりたらどうか。こう  
いう質固内容でありますがまだおわかりになりますか。ある程  
度私たちは代表であるが故に、代表者は代表者として世論を把握し

てこの考え方を当局の考え方と比較検討せしめるといふことはわれわれの義務じゃなかろうかと思ふんです。たゞには意見もまじると思ひます。要するに独立採算制を目標にしていくか、独立採算制じゃなくしていままで通り市の管轄においてやっていくか、独立採算でも市の管轄下でありますか市長さんのいわれるように幼稚教育に対してはいろいろの過程を経ましてここに三年目でありましてここで何らかの手を打って政策に表われるのが妥当でないか、こう解釈するものです。これが何年後にこういふふうになるというためには百円の値上げでもできるという見方を御説明ねがいたいと思ふんです。独立採算制で行くかいままでの市のありかたでいくかということであります。

いろいろ御答弁されておりますが答弁は答弁として神聖なるものとしてわれわれは解釈してあるのでありますからその点について私は質問したわけです。杉熊さんを整えたるころの歩み方が必

要だと思つてゐる。

の市長(田村利男君)代つて御説明いたします。

あくまで理想といふ――まゝでは幼稚園保育園は独立採算制でやりたいと思ひます。なお義務教育の方で十二分にこれ以上は要らなくなつたというような場合には幼稚園の保育料も値上げしていいわけでございますが、おそろくどうも一ついふ事態はないと思ひます。従いまゝして幼稚園の経費は義務教育がある手前あくまで独立採算制で行くのが理想でございますけれども現在の段階といふ――まゝでは飛躍的にこれを独立採算制にするといふほど、市長は大胆でないのでございます。やはり各地自然発生的にできまゝした保育園あるいは幼稚園といふ問題につきまゝして除々にこれが改善方法を考えて行くために今回の三百円を無理に四百円に――たわけでございます。各地に市立幼稚園をつくるということも私たち常に考えております。いずれどういつ時代がくると存



いますがあくまで義務教育を圧迫しないように漸進的に  
ういう計画を樹てたいのであります。何年先に全部機会均  
等で行くということは御答弁申一かねますので勘弁していただ  
きたいと存じます。

なお一年制と二年制は館山小学校ならびに北条小学校付属  
だけは二年制 富崎も二年制だそうでございますがこれも私の  
理想としては一年くらいでやりたいと思っておりますがこれも  
短兵急にお前の小学校は一年制にせよという命令が申一かねる  
状態であります。一か一年制にしたい。する努力をなあと  
の一年間つづけてみたいと思ひます。

○四番(小坂光義君) 本案は大分意見見てもたうございますが先ほど教育  
長の答弁のなかに理想として保育園をよめて幼稚園にす  
るということでありましたがいずれはわれわれの希望するところ  
でこう希望として意見をつけましてやはり保育園の

負担とバランスをとるといふ意見にも解されますので私としては三百円を四百円に値上げるといふ十五号議案に賛成であります。

○二番(吉田勇祐郎君)児童福祉法の当初に書いてあったと思いますが書いてある方面はよくわかりませんが趣旨に従ひまゝてまた教育の機会均等という見地からまゝしてこの目的が早からんこととくに要望するものであります。で私はこの三百円から四百円の値上げに對してはいささかその目的を達するためには少ないんじゃないかと考えるんです。その精神にのつてその機会の早かつたとき完全なる姿になつて千円上げたものを二百五十円に改正するといふ機会を早く捕えろといふことで解釈するのでそれを要望いたしまして賛成いたします。

○議長(石井潔君)本案に對して御異議ございませんか。

(「異議ナ—」と呼ぶ者あり)

○議長(石井潔君)御異議ナ—と認めます。

よつて本案は原案通り決定いた—ました。

○議長(石井潔君)—ばうく休憩いた—ます。

午後二時二十六分休憩

午後二時三十六分開議

○議長(石井潔君)休憩前に引續いて会議を用—ます。

○議長(石井潔君)日程カ十五議案十六号を上程いた—ます。

(書記朗読)

議案カ十六号 館山市市税条例の一部を改正するについて

○税務カ一課長(山口実君)議案カ十六号を御説明申—げます。

はじめに提案理由を申—げます。昭和三十三年三月三十一日法律

第二百七十条によりまして所得税の二千億減税が行われた結果  
所得税額を課税標準とっている市民税所得割は大幅に減少に  
なるのであります。そのことにつきまして地方税法の一部がま  
た四月十日に改正になったのであります。その趣旨はこれらの市町  
村の市の財源を確保すると、こういう趣旨にあるのでございま  
す。とくに本市といたしましては市の財政の減少ならびに納税  
者各位の負担の均等を考慮して提案したものでございます。  
つきに条例に入る前に本項を朗読させていただきます。

地方税法の三百十三条所得税額を税基準として課する市町村民  
税の標準税率は百分の二十とする。ただし標準税率をこえ  
て課する場合においても百分の二十四をこえることができない。

付則昭和三十三年年度の市町村民税に限り三百十三条の二項中百  
分の二十とあるは百分の十八・五 百分の二十四とあるは百分の二十二  
と読替えるものとする。

こうなつておるのでございます。従いまゝて提案されまゝたか  
三十四条一項中 百分の十六とはただいままで市で課税しており  
ました税率が百分の十六でございまゝてこれをこんど平年度におい  
ては百分の二十とするものであります。

つぎは付則でございしますが付則の二条に三十三年度分の個人の  
市民に限り三十四条一項中 百分の二十とあるは百分の十九と読  
替えるのであります。本法においては三十三年度に限りまゝて  
百分の十九、五であるのであります。これを本年に限りまゝて本市に  
おいては百分の十九にしようとするものでございます。従いまゝ  
てこの原因、なぜこうなりますかと申上げますと市民税の  
所得別の基礎は所得税でございまゝて従つて所得税がどのよ  
うに昨年からことと変化してきたか、この状況からいつてまた本  
年の予算の額が要求されてくるのでございます。参考までに  
申上げますと昨年度九万七千八百五十円までは所得割は出な

二 第一 市 民 税  
かつたのでございます。これが三十三年度においては十カ月まで引上げられたのでございます。

それから昨年の総収入額で見ますと二十カ月以上のひとで扶養控除一人のものは去年の税率とこと一の税率でどのようになつてまたかと申上げますとこの方法によりますと昨年市民税を八百四十円納めた方がこの税率によりますと三百五十五円と約五八%減少するのでございます。

つぎに三十万の人に申上げますとやはり市民税において三三%の減になるのでございます。約三十万の方で扶養親族一人お持ちの方は三十三年度においては三分の一になるのでございます。この状況を勘案いたしまして本年の市税の収入財源をみたのでござい  
す。

三十二年に個人の所得割が千二百二十五万二千七百四十五円当初予算でましまりましてこの税率を採用いたしますと三十三年度は

千八十五万六千二百九十五円で約百三十九万六千四百五十円の減となるのでございます。従つて本市の財政規模でもつて税においては前年度と同様の収入を編成したわけでございましてこの百分の十八・五を百分の十九に組習えさせていたまゝしてかゝつていて前年度の税収を確保して三十三年度の税収の予算を計上したわけでございます。

○ニ五番(松本藤太郎君)一千億の減税によつてさういったようなことができてまいりますが大体いまの説明を聞いてみますと税率は上がつても税率でかけるもとが少なくなつてゐるんだから實際に課するは少なくなつてゐるんだということですが三十一年度のものと比べて金と三十二年度さういうふうには計算されまいたものと金ちやうと数字がわかつたら教えていたをきたい。

○税務才一課長(山口実君)三十一年度分の所得税額は八千五百九十二万三千四百円で本年度でございますがその後税務署あたりの





百十七に見込みました。前年は四百十八人。

○七番(嶋貫壮作君)その桌はわかつたんですがまだわからないところがあるのでそれをお聞きます。所得割でなく平均割の方はどのくらいふえる見込みです。

○税務第一課長(山口実君)去年より約〇%約百三十一人増と見込みました。

○七番(嶋貫壮作君)それを何するには三十三番議員が聞いた数ばかりならなければわからないんだけれども見込みは九五%とかなんとかということになってるんだけれども実際の問題になってくるとそれよりふえる傾向がある、実際の税務署の徴収をみるとそれよりふえる傾向がある、それをなんとか計算のうちへ入れて適切な税率を課するというところに骨を折ってもらいたいと思う。

○税務第一課長(山口実君)お議員さんにお答え申し上げます。

昨年の個人所得割を納めた人は四千八百三十七人でございます。こと

―は三千八百人くらいでまだ確定申告中でございまして大体見込みは三千八百人ぐらいになります。

〇七番(嶋伊賀仕作君)君のさっきの説明で四千八百三十七人の所得割の人があつてこれが三千八百人になると千人の食違ひがあるわけだ五百円納めると百円は果のオへ行くんだけれどもそうすると五十万円違ふわけだ。五十万円どこへ盛つてある。君の計算の中で(「ただいまの問題所得割なんです」と呼ぶ者あり)均等割を

……(議場騒然)

〇三番(小沢忠太郎君)ただいま質問いたしまして所得税額による課税の対象人員はわかりました。均等割を納める人の四分の一に三十三年度はなるという数字がここには示されておりますがこれは果していま確定申告しておりますので何人になるかおいていく場合には課の分におさまるいろいろな御調査になつたとは思いますが私としてはこんなに減少しないかということも考えます。

とともにこの百分の十六を百分の二十に上げるといふことは課税対象になる市民の四分の一に對して税率を上げて行くといふことがはつきりとわかるのであります。といつて均等割を上げることは均等割を納めるに困つておる人たちもありまして、こゝで私はたゞたゞおねがいすることでありますが課税方法をオフ・ブレイクによりず2によりず勞を惜ますにもっとも適切なる課税をしていただくためには所得税額によりず所得額に課税していただくたいといふことを再三おねがいするものであります。所得税額によつて課税すると所得税の異動のためにこの税率を変えなければならぬという不便が生じてくるのであります。

市の課員を増員されることも結構だと思ひますのでどこまでも所得額に依じて課税していただきたいといふことを希望するのであります。

そつうと、是にあつて二十に上げることは不賛成であ

ります。以上。

○三番(伊勢仙之助君)この税率の改正問題は非常にむづかしいんで予算案としからみ合せがあるんでそこで結論をとすには困難だろうと思います。

基本的な考え方としては百分の十、五この基準でいくんだという考え方で、五上げることは結論的に申しますと反対であります。そして政府が一千億減税というものを打出してつれが国民に実際に減税になっているかということも考えて行かなければ所得税で減税していつて市民税でとつておるといふ形は仮に市民税で二百万なり二百万下げてもし固定資産税で上がったとつてあり市民税は二千億減税のワケで大きな恩恵に浴さないという問題が出てくる。課税対象とか所得税の自然増、俸給は年々上つてますから大概の場合には自然増というものは当然見込まれるんですから、それれ当初予算に出てくる対象課税になる人員とか税

額を比較検討しないとこれが適当であるかということとはできないんです。がわけわけのきく範囲では千葉市あたりでも再建整備をうけているのに最低基準の百分の十八・五でやっていきたいということとをきいておりますがそういう点からいってやはり人館山市でも百分の十八・五でやっても税額の対象になる人員というものは正確につかめれば十分やっていけるんじゃないかというように考え方に立つわけなんです。てこれをすぐ結論をたすのはむずかしいんじゃないかと思うんですが質問は十分当局に聞いて意見のあるところを解いて委員会付託なりあるいはこの予算審議とにらみ合せて結論をたすなりそういう方法で行くことにしてきようは市当局の意見をきくということとで質問をなす。てその後には結論をたされればいいと個人としては考えるんですがこの問題について予算審議とにらみ合せて最終的に結論をたすという線について皆さんのお考えをきかせたいと思っております。

〇三三番(望月暉作君)課長にお伺いしますがさき課長さんかいいまー  
たあれは要するに自治庁からの通達ですか。

〇税務才一課長(山口実君)地方税法の本法でございます。

〇三三番(望月暉作君)先ほどから聞いておりますと所得税が昨年  
から安くなったそれは人員が大分減ったように答弁しております  
が私が考えますのに自分の十九に――ます場合においてもっと人員が  
ふえるんじゃないかと思っておりますがまた實際問題として  
当然さきの自治庁からのあれによりますと自分の十九という  
のと自分の十八・五と二通りに読習えるということも説明――ま  
たがこれはどういう違いかお伺い――ます。

〇税務才一課長(山口実君)地方税法では三十三年度に限りまして自分の  
十八・五を本市においては一五上げまして自分の十九に改正――ようと  
するものでございまして大体〇・五の金額が所得別の約五十万に匹  
適するのでございまして市の財政の現状からみまして最低の上

昇率によりまして本年度の予算を編成しようと思ひまして増額上程した次第でございます。以上でございます。

○三番(望月暉作君)市の財政で百分の十八・五のものを百分の十九にするんですがそれならば市民の経済をお考えになりますか。

○税務第一課長(山口実君)やはり納税者の負担均衡、資力というものを勘案いたしまして各人別に所得額からこんで納める額を計算した結果昨年より市民税も相当やすくなるとういう結論を得ましてこれにより最近の上昇率をもちまして提案した次第でございます。

○三番(望月暉作君)毎年のことですが自然増収という名でかわらずあんだ方が見込んだ人員よりふえる一税金もふえると考へてあります。それで何を好んで百分の十八・五のものを十九にするか市の財政というけれども百分の十八・五にどうして提案しないかこれは実に不可怪なんです。また市民の経済も昨年よりこと

ーの方がずっとおちておりますのでその点よく考えていただきたいとかように考えております。

別にこの件につきまゝして私はまだ考慮中でありますのであとでまた質問します。

〇七番(嶋貫壮作君)旧法の時代には市民税を課する方法が四つあったと思うが、現在もそうですか、しゝ他に課税方法があるならばその課税方法によつて課する率を研究してあるかどうか。

それからしゝ百分の十九とか二十とかいうことが市会の協賛を得られなかったときはどうするか、この三つの点について質問します。

〇税務第一課長(山口実君)われわれといつては努めて市民に協力していただくためになるべく最低の税率で行う(すゝ)ということばまいていない、もう一回いいます、旧法の時代には四つとる方法があるかと思つて記憶してありますが新法になつてしゝ依然として四つの方法があるかどうか。それから方法があるならばその各方法に応じて



率を研究してあるかどうか、それからこれが否決になったような場合には市でどうするかと呼ぶ者あり）誠に恐縮でございますが、私税務一課へまで三月ぐらいの期間を経つてませんで新課税法については研究してございます。ただいままで行われたる条例によつて市の財政状況を見るとともに市民になるべく納得のいきます最低の線で改正しようといひゆる現行法でもって研究してまいりました。それからこの課税方法が否決になった場合でございますが（遠慮なうにいくれ）と呼ぶ者あり）方法といひまゝでは地方税法によりまゝして十八、五の線でしつて執行されることになると思ひます。（いひゆるオプティミム）の方法がいけなかつたときにオニ、オニの方法があるそのどの方法を採用してもいい議員の多数がほかの方法でやつてもらおうといふときにあなたの方に研究しない人ではこっちが困る。そこでこれが否決になつた時にはくれぐれで困りますからどうと否決してもういたくないとか、なんとか希

望をつけてもいいから述べておいてもらいたい」と呼ぶ者あり

市長(田村利男君) 小沢議員、嶋貫議員との両方に関連してお答え申上げます。

小沢議員はオプショナルをやってくれという御希望のようですが、カーはがら他市の条例をみましても本市中オプショナルを採用している地域は六つか七つであります。大体はオプショナルを採用している傾向であります。このことにつきましても過去においていくたびか申上げておりますので、現在今後もこの方法でやって行きたいと考えております。

従いまして、こんど嶋貫議員の方になりますがおプショナルの課税方法についての準備をしておるかということとございしますが、はつきり申上げますと、収入はかなり市の財源は楽になります。ということはわかっておりますが、課税そのものがいくらふえてくるか、ということとははつきり数字がわっておりません。ただ、市民税が

猛烈に上がってくる、各市町村はなんとおいてオパミヨコン2の方をと  
って財政を豊にしたいという希望は大体昔の旧十市の市長は考慮  
してありますが、当市はオパミヨコン1でやることを妥当であるといふ  
ことと私も考えております。

従いましてオニオミの方法の数字についてはおそろしく税務課長  
は研究してないと思ひますが、これをやりますと市の収入は三割く  
らいふえるといふことは事実でございます。以上でございます。

○七番(嶋貫壮作君) 市長さんの答弁満足したような満足しないような  
ちやうと微妙な心理状態にあかたんですが満足しないというのは市  
長さんが實際にオパミヨコン2ならオパミヨコン2の方法を研究せよといふ  
ことをお命じになつて、やうして身をもつて御説明できればわれ  
われも納得するのに行んですけれども研究なさうなつてただこつ  
う確信であるといふだけではどうかと思ひますんでさうに甲上げる  
ならば市会と協働してことゝは市長さんとしてもさうがないてい

ようから来年度なら来年度からオプショニング二年の日子をかけて  
研究してみたいとか悪いとか、決定するということまでには御決心を披瀝  
していただきたいと思います。

○市長(田村利男君)もともと市長としましてはオプショニング二年でなければ  
やそ収入をふやしたいという気持はあるわけでございます。一か  
はいろいろな情勢におきましてできない理由もあります。早  
速にごオ一課に命じましていろいろな課税を研究されるように  
したいと存じます。

○二七番(嶋貫壮作君)だからこととはこれを通してもらいたいというお考  
えです。

○三番(伊勢仙之助君)課税方式の内容についてオプショニングでもして  
内容は変わっておりますが、その内容を各議員にプリントして配布し  
ていただきたいと思っておりますがそういうことができますかどうか。

○税務第一課長(山口実君)後日印刷して送付いたすように準備させます。

○三番(伊勢仙之助君)できれば予算審議とからみ合せて十分検討したいと思ひますが御存知ない方が多いと思ひますから急速におねがいいたします。

○三番(伊勢仙之助君)ただいまの市長さんの御説明やや納得したんですがもうひとつはつきりと市長さんにお伺いしたいところがあるんですがそれは市長さんがオプショナルがいいか2がいいかどっちが適切なのかということについて現在のお考えはどうなんでしょうか。私としては1で行きますとたゞかに課税方法が不均衡である極端な例になるかも知れませんが均等割を課する人が一万五千から六千あるそのうちの所得税額によつて課税するのが四千人とすると残りの人のうちのその日の生活にも困るようなものが二千人とするとあとの二千人には相当収入の段階があるそれが均等割では不公平である。隣りと家では収入が違つのに市民税が同額であるというのが端納の大きな原因になるような場合もあるのであつてこの点

とくと研究していただきたいと思うものであります。

○市長(田村利男君)　そのようにいたします。

○三二番(萩生田七郎君)　この問題は根本的に課税人員、収入の……(私語するもの多く聴取不能)　いわゆる標準税率を上回っており、ということに検討の余地があるんじゃないかと感じます。また三十三年度予算編成は自分の十九でしめて編成してある、ここに関連性があると思うんでありまして、先ほど三番議員が発言なさったように委員会に付託することが妥当だと思えます。(休憩ねがいますと呼ぶ者あり)

○議長(石井潔君)　しばらく休憩いたします。

午後三時二十分休憩

午後三時三十分開議

○議長(石井潔君)休憩前に引続きまして会議を開きます。

○議長(石井潔君)ただいま上程されております議案第十六号「市税条例の一部改正に關する議案」でございますが、当局より原案を訂正の申出がありまして、たので説明をさせていただきます。

○税務第一課長(山口実君)議案第十六号について訂正申上げます。

ただいままで慎重審議いただいた結果、本年度はやはり籠山市も本法に準じまして付則の第三条「昭和三十三年度の個人の市民税に限り百分の十八・五と改めるようにおねがいいたします。」(文中で読直してくれ原案訂正だから)と呼ぶ者あり)

付則二項「昭和三十三年度の個人市民税に限り」第三条「一項中「百分の二十」とあるは、「百分の十八・五」と読習えるものとする。

そのように御訂正をお願いします。

○二番目 沢恵太郎君)ただいまの原案訂正によりまして付則の百分の十九が十八・五に変更になったことは了承しますが、そうしますと翌年に

はそのまゝ生きてくるわけですが。

○税務第一課長(山口実君) 来年は来年度として理事者の考え方によりましてまた御変更の件が審議されると思います。(かならずおるとは限らんでしょう)と呼ぶ者あり)この場合は平年でございますから踏襲できます。

○二七番(嶋貫忠作君) 三十四年度の分になります。さうさ市長さんが議事を前にして約束下さった。オプミヨこの2を研究してらうとしてその結果によると、さういふことによりておいていただきたいと思ひます。

○三番(伊勢仙之助君) ミ丁三年度の分、四年度の分も百分の二十ならば一向差支えないんでありまして、これより上回る事をやる場合に改正しなくちゃいけないんで三十四年度の分については必配する必要はさらにはないと思ひます。オプミヨこの課税方式をどのようになすにするかということについては先ほど嶋貫議員から市長に要望があった通り研究していただいて、それ以外には別段問題はなないと



解釈をしますんで、原案はこれでいいんじゃないかと思ひますんで、できれば通していただきたいと思います。私は原案に賛成です。

議長(石井潔君)他に御異議ございませんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)御異議なしと認めます。

よつて本案は原案通り決定いたしました。

議長(石井潔君)つづいて日程第十八議案第十八号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第十八号 館山市国民健康保険条例の一部を改正するにつて

○保険課長(唐沢貞太郎君)議案第十八号につきまゝて御説明申し上げます。

一番最初のカエ条中の改正につきまゝては国民健康保険運営協  
議会の一部改正に伴ひまゝて従来医師または歯科医師を代表す  
る委員五人とあつたものに薬剤師を入れまゝて医師、歯科医師

または薬剤師を代表する委員五人といたのでございます。

次のオ五条甲の改正につきましてはオ五条のうちの該当項目は医療従事者またはその世帯にあるものというものを削除したのでございます。削除することは結局医師、歯科医師及び薬剤師のそのもののまたはその世帯にあるものは国民健康保険の被保険者であるということになるわけでございます。

なおこれは四月一日の現況によるものでございますが医師、歯科医師等につきましては特別でございます。健康保険の被保険者になることになると考えられますので医師、歯科医師につきましては一応除けるのでありますがまたこれは該当しなくなるというふうになると考えております。

オ六条甲の改正につきましてはこれは看護という保険給付の範囲のなかの五完全看護施設のある病院に入院した場合に限る。というところでございしますがこの看護ということとは果の監査の折に指

導の結果入院の中に含まれるのでとまり看護ということはこの間においてくことはないんだと当然完全看護ということとは入院の欄に含まれるという解釈でございますのでオ五項を削除したつてございます。

次はオ二十条の次に四条を加えたのでございますがオ一番目の二十条の二でございしますがこれは日産健保の被保険者が国保の被保険者になった場合につきまして保険の給付が両方から受けられるよう規定になっておるのでございますが日産健保のなかに国民健康保険の給付を受けた時には日産健康保険の給付は行わないんだという規定がある。その反対のこととここに条例化しまして日産健保の給付をうけましたものにつきまして国民健康保険の給付は行わないんだというところをここに申述べたものでございます。

オ二十条の三は被保険者が犯罪行為とか故意に給付事由ということとは現在の健康保険の条例の規定のなかにある字句でございます

二 第 二 十 一 章  
がその解釈をみますと故意に給付事由という場合につきましては  
一応現在の解釈では自殺未遂というようなくとが考えられてある  
のでございますがそういう場合には保険給付はないんだということ  
でございます。

次は二十条の四でございますが斗争泥酔等は一応わかるんでござい  
ますが次の著しい不行跡という場合につきましてはやはり健康  
保険の解釈をみますとちょっとはなすうい言葉でございますん  
ですが正常の夫婦間における花柳病の伝染というものにつきましては  
てはこの字句は入らないんで夫婦関係以外のものから再度にわたって  
花柳病を伝染したという場合についてはこの著しい不行跡に当る  
んだというような解釈がございしますので大体そのように考えて  
おるわけでございます。

次は二十条の五でございますがこれは例えば自動車に被保険者  
がはねられたという場合におきましてその自動車にはねられた人は

給付を行った時には給付の限度に対して市からその自動車  
会社へと損害賠償請求の権利を取得するのだということござい  
ます。なおその被保険者が療養給付を受ける。またお三者か  
ら損害賠償を受けた場合にはその給付を行わないという規定で  
ございます。

次の二十四条甲の改正でございますがこれは従来保険料の最高額は  
三十三年度までは一か五千円であつたものと二万円と一たのでござい  
ます。

なお他市の例をみますとほとんど三万円ない一五万円ござい  
ます。なお二万円のものにつきまして私の方で今年度のものと  
調べたところ二万円以上のものにつきまして三十人おります。  
一か五千円から二万円までの人につきましては三十五名おります。  
以上で説明を終わります。

○議長(石井潔君)御質疑ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)御異議なしと認めます。

よって本案は原案通り決定いたしました。

議長(石井潔君) ついて日程十七 議案第一八号 議案第一九号 一括上程  
をいたします。

(書 記 朗 読)

議案第一八号 昭和三十一年度国民健康保険支入支出追加予算

議案第一九号 昭和三十一年度館山市支入支出追加更正予算

保険課長(唐沢貞太郎君)議案第一八号 特別会計国民健康保険の支

入支予算について御説明申し上げます。

最初支出の方から申し上げますが、一応本年年度の療養給付費の支払

いが大体三千十五万五千円程度になるのではないかというふうに見込

みまいた結果、一応療養給付費の療養担当者に支払うべき金額

は約五百一十万円不足するのでございます。この支入でございますが一般会計からの繰入金二百七十一万四千円、それからこれを払うことによつて生ずる補助金でございますがこれを二百十萬五千円、なお事務費は多少値が上がつております、關係でこれを十八萬一千円見込んでございます。以上説明を終わります。

秘書課長（山谷親君）議案第十九号、館山市支出入支追加更正予算書の例によりまして支入の方から御説明申し上げます。

支入の市役所職員費中に吏員の給料二十二万更正しておりますが、これは人件費を追加いたしました財源に充てるために更正いたします。

つぎの職員給料一十万円、これは職員の移動によりまして一十万円の不足をきたしたために給料を二十万円追加いたしました。

なおつぎの超過勤務手当これは市役所、なお他の款項目にもあります、が当初予算にあきまして、館山市は職員費の三%

を計上するんでございます。超過勤務手当は地方交付税によつて算出資料になるのは六％普通計上されているわけですが、館山市は極力人件費を節約するという考えのもとに三％当初予算に計上したのでございますが、その後課長ならびに職員の協力を得まして節約に節約でき得るだけ節約してきたのであります。どうして、本年度末までにはこの市役所職員給において十三万の不足をきたすので、今回計上した次第でございます。

つぎの思給組合員担金、共済組合員担金、これらの更正は、同給職員が退職しましたために、これらの人の新陳代謝した職員との差額をここに更正いたしました。なおその他の消防員福祉事務所員、保険衛生員等いくらかづつ人件費の追加更正があります。教育員を除いて、今回の人件費の合計額は二十七万百円計上いたしました。その財源といたしましては、同いく人件費を更正いたしました。四十九万六千六百円更正したので



ございますがこの二十七万の追加に対する更正額四十九万八千円の  
差額三十二万八千五百円は他の支出の財源を充てるために更正し  
たのでございます。以上簡単でございしますが御説明申し上げます。  
○総務課長(定戸貴君)オ三項の消防費について御説明申し上げます。

八十三万六千円更正減になっております。

オ三項の消防署費六万三千円でございますが内容は簡単でございま  
すので省略します。

オ三項の消防団費にあきまゝて八十九万九千円更正減になってありま  
す。オ十三節の食糧費として二万八千円を計上いたしましてたが  
これはさる二月の十一日に日本消防協会から館山市消防団が優良  
消防団であるというので表彰旗の授与を受けましたのでこの  
栄誉を祝賀するために班長以上百三十人を集めまして三月下旬  
に祝賀式をやる予定でございしますので二三百円といつてましてこの  
必要額一カ八千円を計上した次でございします。二十八節の施設費

で消防自動車の購入費を百万円減額してございますがこれは  
 七分団の消防自動車と国庫補助を得てから買う予定で  
 計画したものでございますが周囲の事情からこれが実現しな  
 くなりましてこの購入は地えで半分市で半分ということに  
 したために不要になった額でございます。それから車庫建設費  
 として五万八千円を計上いたしましてこれは近く十二分団と十二分  
 団が統合いたしまして消防自動車を持つということになります  
 ので両口二箇の奥行三箇半合計七坪の自動車の車庫を格  
 納するための建設費として半額を計上したのでございます。  
 三十二節の負担金として三万五千円を計上いたしましてこれは  
 消防団員と公務災害補償責任共済基金というのがございまして  
 これに消防団員一人四十円の割合で五百七十三人分二万七千九百二十円  
 と一人当たり三銭五厘の割合で二千八百円合計二万五千円を  
 納めまして消防団員が災害を受けた場合の補償にするとするといふ

しもの支出でございます。以上。

の建設課長(新井重助君)が四款土木費について御説明申し上げます。  
道路橋梁費のうち維持修繕費におきまして工事請負費五  
十五万の追加をおねがいするんであります。これは相浜地区の道  
路改修工事費に便う予定でございます。道路改修は延長にい  
たりまして三百三十三メートルございましてこの路線五ヶ所の舗装  
をいたす考えでございます。

この財源につきましては相浜地区に固有財産売却代金をもつて  
て充当する予定でございます。以上でございます。

教委庶務課長(鶴沢實覚君)が七款教育費について御説明いたします。  
教育費におきまして五万三千四百円を追加いたしました。その他の  
の追加財源をいたしましては教育費内で更正をいたしました。

教育委員会費の需用費におきまして三十三万の修繕料で三万円の追加  
をいたしましてこれは委員会の自動三輪車の車体検査がございま

二 食 料 補 給  
すのでそれに要する修繕料でございます。就立管理費の二、三節  
備料および損料で四万二千四百円、備上料として追加いたしまして  
が、これは学校敷地の国有土地の値上がりによりまして追加分ござ  
います。

小学校費におきまして、十萬二千七百円の減額でございますが、需  
用費の賃金五千五百円は給食炊事婦の賃上料の増加分、これ  
は期末手当に相当する分でございます。消耗品費におきまして  
一万五千七百円、食料費で二千三百円、印刷製本費で三万三千  
円追加いたしまして、これはいずれも県の指定研究学校の費  
用でございます。高崎小学校、船形小学校、神戸小学校に  
代る分でございます。

三十九の師扶助費で六千八百円を追加いたしまして、これも  
津南女保護児童給食費補助金で補助分が決定いたしまして、  
それによりまして増額分でございますが、これは補助金と同額を

市費負担することになっておりますので当初予算に計上いたしまして差額の六千八百円をここに追加いたしたわけでございます。

営繕費の修繕料で三千三千円、校舎修繕料で追加いたしまして、これが昨年度におきます風害によります校舎の小破修繕の追加でございます。

中学校工員におきまして七千円の追加でございます。

このうち営繕工員の修繕料として七万六千円追加いたしまして、たが、これに風害によります校舎修繕の追加分でございます。二十四節の工事請負費で八分円を追加いたしまして、たが、これは、中学校ガス施設工事費として九万四千円を計上いたしまして、たが、これは理科室における施設でございます。

中学校は今年度におきまして特別教室の相当な備品の充実を図ったのでございますが、今回このガス施設によりまして理科教育の充実を図りたいと思つてございます。

高等学校費におきまして四万二千五百五十円の追加でございますが更員給におきまして十七万二千二百五十円を追加いたしましてたがこれは事務補佐員が事務職員に昇格いたしましてたために給料をこちらへ費目替えいたしたものでございます。

諸手当におきまして扶養手当三万五千百<sup>円</sup>を追加いたしましてたがこれは扶養親族の増加による不足分でございます。宿日直手当におきまして二万五千二百円を追加いたしましてたが高等学校におきましては当日直は全日制の職員と定時制の職員と両方でやっておりますわけでございますが今年度は確定いたしましてたもののより全日制から勤務する日数が多いために二万五千二百円不足いたしましてたので追加いたしたいと思っております。特殊勤務手当五万五千追加いたしましてたがこれは時間講師として報償費に含んでおりましてた時間講師の謝礼をこちらに費目替えいたしたいとするのでございますが全日制へ定時制から

勤務する職員に対する特殊勤務手当の額でございます。結局時間講師を定時制の講師でまかなったということでございます。

幼稚園員におきまして十二万百円の追加でございますが、更費給七万五千円、給料三万一千五百円、職員手当で三万七千六百円、いずれも追加いたしまして、これは先般の給与改訂によります不足分として追加いたしまして、それから施設費で土地購入員五万円を更正いたしまして、これは、館山幼稚園の土地を購入するために予定しておったんですが、あの土地は厚生寮とつながっておりまして、今年のうちにこの購入ができなくなりまして、ためて更正財源といたしたものでございます。三十二節の負担金および交付金で二十六万五千円を追加いたしまして、これも先ほど申し上げました給与改訂によりまして、実運のものとございます。

公民館員におきまして賃金で二十九百円、看守人住上料を追

加いたーまーたがこれし期末手当に相当する額の不足分でございます。

青年学級費におきまして職員給で四万五千六百円を追加いたーまーたがこれし報償費の講師謝礼の費目替えてございます。これは西岬の青年学級に常任講師をおきまーたのでそちらの方に費目替えをいたーたいと思つたのでございます。図書館職員におきまして賃金六百円看守人住上料として追加いたーまーたがこれし期末手当に相当する額の不足分でございます。以上で説明を終わります。

○福祉事務所長(長谷川広浩君) 社会および労働施設費について御説明申上げます。

今回三百丁の追加でございますがその主なるものといはーまーては生活保護費として二百四十丁追加を求めたのでございます。それは昨年五月突然保護基準の引上げが約一割減とあつた



わけでございますが年度当初でございますので支出の推移をみておりましてがそれぞれ付記のごとく現在足りないという予定でございますので二百四十万追加を求めたわけでございます。

三項の児童福祉費でございますがこれで七十九万四百月の追加を求めました。これはそれぞれ施設に委託してあります児童の委託料でございます。

六項の福祉事務所費として九箇節の賃金に八千六百六十円これは引揚者関係の事務をおねがいしております（用入料）でございます。それから十九箇節の手数料として医療扶助の診療報酬の手数料として六千四百六十円不足の見積りでございますので追加を求めたい。こう考えたわけでございます。

他の費目についてつぎまゝではこれらの追加財源のためにそれぞれ支出不要と認められる額を更正いたしたわけでございます。おねがいたします。

○農産統計課長(吉田耕一君)産業費經濟費のうち農業費に委員金費  
につぎまゝては秋書目課長から人件費関係で御説明がございまして  
ので農林費以下について御説明いたしたいと思います。

振込費の三日月の追加でございしますがこれは県の農業資金利子  
補助規定によります。県の利子補助が三日月ございましてたのでそ  
れを支えたいと考えるものでございます。

つぎが土地改良費でございしますが、午前中御審議になりました  
神余の北沢地区にありますところの土地改良事業の調査委託料  
でございしますがこれを二百百計上いたします。七月の神余  
北沢の暗渠完全排水事業費で四十二万九千円を計上いたしたので  
ございしますが内訳といたしまして人天賃に賃金といたしまして  
十七万七千七百三十九円、資材費におきまして二十二万五千八百四  
十三円を計上し、その他、借損料、あるいは人天に対する労務保  
険料を計上いたしましてこの事業費を遂行いたしたいと思います。

ものでございます。よろしくどうぞおねがいいたします。

○商工水産課長(羽山房雄君)六項の水産費について御説明いたします。

三工二節の負担金補助および交付金で六十万円おねがいいたします。それはかねて館山漁業ほういんに伊予漁業協同組合の計画によります。浅海増殖事業<sup>協同組合</sup>果費補助金が大体同額のものがほぼ決定になりましたのでここに予算措置をいたしましたのでございます。

オ入の果補助金にあきまゝして同額の六十万円を見込みました。次でございします。よろしくおねがいいたします。

○農産統計課長(吉田新一君)十二款統計調査費につきまゝして御説明いたします。

統計調査費にあきまゝして六千六十万円を追加おねがいする次第でございします。

これは三十二年の十二月末日現在をもちまして中小企業総合基  
本調査をするようにと委託がございましてたのでいろいろこれに  
対する報酬あるいは消耗品備品というようなものに計上い  
た。まして本事業の委託をうけて実施した次第でございま  
す。

○総務課長(完戸貴君)が十三款選挙費三千二百円の追加でございま  
すがすでに秘書課長から全般的な説明がありましてたので省略  
します。

が十五款の諸支出金として二百七十一万四千円を計上いたしまして  
たのは国民健康保険会計の繰入金でございます。国民健康保  
険会計は保険料と国庫支出金の入金を加えましてなお三百七十  
二万四千円赤字となる見込みでございますのでそれを埋める  
ために一般会計から繰入れて決算を遂げさせたいと思つたもの  
でございます。

つぎはオ入の説明をいたします。

オニ款の市税のうち普通税として五十七万五千九百六十円を計上いたしましてこのうち電気ガス税につきましてはすでに予算に計上いたしのが八百六十二万でございますがなお今後収入を見込得るというものはつきまして六十万五千二百円を計上いたしましてでございます。オセ目の入湯税は法律の改正によりましてつぎの目的税へ移管をいたしのでございます。

オニ款の地方交付税として五千万円を計上いたしまして。

これは特別交付税の分でございます。一か一特別交付税はまだ割当額が未決定でございますので一応この程度は見込めるのではないかという最低額について計上いたしのでございます。

オニ款の公営企業および財産収入といたしまして二百二十五万を計上いたしまして。このうち自転車競技収入として百万円の分につきましては三十三年度の十一月までに収入した自転車競技

の収入は五百四十万でございましてたがなあこんご千葉と松戸の  
わゆる二月と三月の分がございまして合計七百五十万くらいは収入され  
るんではないかと考えまして百万追加した決事でございます。

才三目の財産売払代金として土地の売払代金を百十五万計上い  
たーまーた。これは先ほど建設課長から説明のありまして相浜  
地区の工事費のための同財産から上がったものが五千五百円その  
他の市の土地を売ったものと六十万として計上した決事でございま  
す。

才四款の分担金および負担金才六款の国庫支出金才七款の果  
支出金これらにつきまして先ほど先ほど先ほど先ほど先ほど先ほど先  
いたーまーたので省署をいたーます。

才八款の寄付金の百万円の更正減は七分団の国庫補助がないた  
めの措置でございます。

才九款の市債といたーまーてこれは港湾改良事業負担金として

二百万円を当初計画したのでございますがこれは対象が船形漁港だけだということで、館山漁港の方は該当がなくなりまして、追加をいたした次第でございます。以下追加更正額六百四十二万九千七百二十円となります。以上。

○議長(石井梨君)本議案一括御審議をいただいておりますので質疑を一括しておねがいたいという存じます。

○三五番(嶋田繁君)ひとつお伺いしたいのですが、特別会計の健康保険の方でございまして、けれども国庫から出てきますところの補助金と、な基準によつてこの率が決まるんでござんすか、それを最初にお聞きしておきたいと思ひます。

○保険課長(唐沢貞太郎君)補助金は事務費の補助と療養給付費の補助と保健婦の補助金でございまして、保健婦の補助金は十ヶ月か、その補助対象として、その三分の一がくるわけでござい

事務費の補助金は全国平均が五月でいたが、これを各地域差にかけまして各地域によって違ふのでございます。

療養給付費の補助金は支払った額にオ一オ式オニオ式オミオ式というのがございましてオ一オ式は保険料が九〇%以上になった場合にはくるのでございます。

オニオ式につきましては市の方の財政基準額と需用額を度によってくるのでございます。

オミオ式は保険者負担分の二五%くるのでございます。以上でございます。

○三五番(嶋田繁君)つづけて質問したいと思ひます。

オ一オ式でござんすけれどもこれは九〇%にまだ達してありませんので見込みない。もう少し少なくなつてゐる。先ほど高橋議員からいろいろ御意見もありました。が本市としましては九〇%を行つた場合にはどのくらいの額がきつうなんでしょうか。



○保険課長(唐沢貞太郎君)九〇%超えた場合には不体面の手算の  
關係がございますので概算一か甲上げられないんですが目分程度  
くるのではないかというふうに考えております。

○三五番(嶋田繁君)さきも御意見がありましたが一ツ御努力下さっ  
て九〇%に達するようにやしてもらいたいと切望するものであり  
ます。がそれに対して私考えるんですが国民健康保険は非常に  
危機にあるんじゃないかと考えます。やがて法律が改正になりま  
すとお匡看さんへ支払う金がいりゆる療養費が高くなっていくよ  
うな新聞もみますけど、それがひとつ。

なおまた病気にかかる人は非常に多くなっているというよう  
な情勢にもなっており一ツ保険料の集り方が九〇%こえてる  
ところは多々あるのに本市あたりはまだそこに達していない、それ  
に従って滞納が多い、この際まず市長さんの御意見を聞きたい  
んですが保険ももう少し充実させて行こうとてこれらをも

一 第二十三頁  
解消してもらいたい、こう考えます。

これは実に大きな問題であると思つてあります。

税務課の方は徴収と賦課が別になつておりますが国民健康保険の方は賦課もあり徴収もある。こういうふうになつておるんですからそれを十分考慮してやつてもらいたい。なお税務三課のほうは徴収にもかけますから月に六百日という手当がでるということとをまいてあります。保険課の方はこれが三百円。一か一これは最低の日数が何日以上でなくちやならぬということに決まっております。あるところが半分である。なるほど税金の額と保険料の額とは総額においては非常に差がある。一か一滞納の口数というものはその額に比較して口数が多い、やはりある程度同じくらいではないかとも考えられるものであります。従つていそがしと云ふことはやはり私は同じであるところ、ふうに考えるんですがまず徴収の手当あたりしぜひ考慮してやつてもらいたい。

こういうことを私は考えておるんです。

それから保健婦ですがこれもいさくふやまてそうして病気を未然に防ぎたいという地域でも回りてある程度まで指導してやってやるというふうな病気にかかる率をいく分かで減らして行くというふうな立場をとってやってもらってはどうか、こういうふうに考えます。これらも当局としては十分かつ鼓舞してやってもらいまして滞納のないように努めていただく。こういうふうに考えます。これらに對しまして市長さんの御意見をひとつ伺っておきたい。それからすぐできなくていいですが地域ごとには受診率と保険料の収入の率、船形、那古、北条、館山、旧六ヶ村、こういうふうな地域的におきかせねがいたいと思う。それからもうひとつここでおきましておきたいんですが生活の扶助を受けておるものはもちろん保険料の全部が民生関係へ行くだろうと思っております。一か一人に医療扶助を受け<sup>て</sup>る

のは前項に該当ができないものか、どうか、こういうふうに考えます。いまのままであればあらうと思ひますから、そういう場合には地方税も免除してやうて下すうてはどうか、免除すれば民生委員関係の方へ行くから、療養費の八割は国庫からもうえる。

こういうようなことを言いておるんですが、これは果してどういふうにできますか、どうか、やればやれないことはないと思ひますけれども、その点もお聞かせねがいたい、こう存じます。

○市長(田村利男君)保険料の問題でございますが、非常に市税と匹敵するような額でございますんで、保険料の徴収につきまゝ、ては相当鋭意強化を進めてゐるわけでございます。

職員も最近臨時を三名追加しまして、その強化を図つてゐるような次第でございます。

なお滞納地区と申しますか、いままでにかかりすぎり地域も、実際あるわけでございます。そういう方面の地域に對しましては先

般の保健運営委員会におきましても数字を上げまゝてこんご  
そっちの方の受診率の低下を問うというては語弊がありま  
すが低下を問うようにいろいろ運営委員会でも考えてありま  
す。何に—まゝても保険料の九〇%につきまゝては相当な補助が  
あるわけでございますが現今館山市におきまゝては補助がない  
わけでございます。—か—ながらこゝは館山だけの問題ではあ  
りません安房郡のいさな町村では九〇%以上とっているところ  
もあります。がこんご鋭意九〇%の線に添って努力したいと思っ  
てあります。

○保険課長(唐沢貞太郎君)をだいまお尋ねございまゝた受診率の比較  
表と保険料の納入の率の比較表は後日印刷—まゝて配布した  
いと思つてあります。大体のことはおし記憶—てございすんで  
わかるんですが受診率の最高は三十一年度の実績でございますが  
船形の三三〇パーセント。そのつぎが富崎最低はた—か館野だ

と覚えております。

なお収納率の一番いいは神戸でございまして現在ハ一%入っております。  
詳しくいことはあとで。

○三五番(嶋田繁君)それはプリントであわびたいと思ひますがもうひとつ最後の民生委員関係はどうお考えになつておりますか。  
○保険課長(唐沢貞太郎君)現在の国民健康保険での条例では民生委員の生活扶助を受けているものについては私の方から紹介してあるんですが、單なる医療扶助につきまゝでは当然私の方に入つてあるんですが、これが税が免除ですか、そういうふうになれば当然生活扶助の方へ行くんではないかと思つております。  
現在のところでの單なる医療扶助につきまゝでは私の方になつております。

○三五番(嶋田繁君)それいやらうのとつ伺いまゝ。  
健康保険につきまゝして高橋さんが御熱心にいろいろ御意

見を述べて下さつてあるんですが私も大きな問題だといふふうに考えておるためにいろいろ調べてもらつたんですが市民税の方から行きますと生活保護法の規定によつて生活扶助を受けているもの、これは問題はありませんと思ひますが先へ行きますと生活保護法による保護を受けてあるもの、かういふふうになつております。保護といふことのなかに医療保護も含まれてあるんじゃないかと考えます。はいめは生活扶助とあとの方に行きますと生活保護法の規定による保護を受けているもの、医療の扶助を受けてあるものやはり保護なんです。とくはこゝえ規約す字句が違つてあるといふことを考へていただきたいと思ふ。それから固定資産税の減免のところへ行くと貧困により生活のため公費の扶助を受けてあるもの。このなかには医療扶助も入るんじゃないかと思ふ。こゝう考へていきますと減免はできるんじゃないかと思ふ。

医療扶助なんか受ける人は比較的貧困な人であります。そうしてこれを免除してやるということは貧困者を救うという大きな意味も生じてきます。またこれを民生委員関係へ持っていくますと医療費の八割がもうえる。こういうことになります。一方におきましては税の減免をやるのとまた貧困者を救うというような意味から考えてもそうやれば一石二鳥というような関係になりやうないかと考えるんですが、これはひとつ御研究の上でよろうやうでございますから最善の方途を講じていただきたいと考えます。

。議長(石井深君)他に御質疑ございませんか。

。三三番(望月暉作君)児童措置費として追加予算で約八十万近く計上されておりますがこれは委託児童の措置費として書いてあります。これは船形の臨時学園に児童を委託してあるものかと考えておりますが、この追加で急に止まりました。



けれどもこれは当初予算から児童二人に対して委託費が急に上がったものか、あるいは委託の人がふえたものか、その支払いについて委託料として支払うのに何回ぐらい支払ってあるのかお伺いいたします。

つぎに富崎のアスファルトの道路舗装でございますが、もちろん結構でございますが六軒町から鍛冶山へ通ずる国道が相当いたんでありますから、こういう機会に果あるいは土木出張所の方へ一日も早く補修していただきたいことを要望しておきます。

○福祉事務所長（長谷川宏治君）児童措置費について御説明申し上げます。

これは年度中途におきまして人員が増えたためでも、もちろん当初としての臨海学園のものも入っておりますが、月々支払いをするということになっておりまして、例えば一月分を二月に払うとして二月分を三月に払う。こういうことになっております。

が七十九万の数字は三三ヶ月というふうに予定をしております。

。建設課長(新井重助君)お答えいたします。

ただいま県道国道につきまして非常に舗装が痛んでおります。このことにつきまして過般から市長はじめ県の方へ甲上  
げまして補修をおねがいしておるんですがただいま市でや  
っております千葉銀行から北条海岸にいたる舗装工事が数日中  
に完了いたします。その後市内全般にわたりますので補修を  
するということになっております。御了承のほどおねがいいた  
します。

。議長(石井深君)他に御質疑ございませんか。

(「異議ありません」と呼ぶ者あり)

。議長(石井深君)議案第十八号、十九号可決確定することに御異  
議ございませんか。

(「異議ありません」と呼ぶ者あり)

○議長(石井潔君)御異議な—と認めます。

よって本案は原案通り決定いた—ます。

○議長(石井潔君)これさもて本日 of 会議を終ります。

次回は明十一日午前十時開会と—その議事は議案オ二十号  
カ—オ三十二号の各款説明といた—ます。

長時間にわたり—て御苦勞さまでございま—た。

午後四時五十一分散会



